

＜2024年度 救急救命士学科 救急救命士コース シラバス＞

科目名	英語 I			学年	1
		単位数	1	コマ数	8
教科目標 国際社会に対応し得る能力を養い、英会話の基礎を身に付ける。 医療従事者として、人体の部位の英単語及び医療的な英会話を身に付ける。					
講 義 内 容	1	日常の英単語			
	2	日常の英単語			
	3	身体部位の英単語			
	4	身体部位の英単語			
	5	医療英会話			
	6	医療英会話			
	7	リスニング			
	8	リスニング			
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考				

＜2024年度 救急救命士学科 救急救命士コース シラバス＞

科目名		シミュレーション実習 I		学年	1
		単位数	5	コマ数	113
教科目標 救急隊員の責務、心構え、知識の向上を実技及びシミュレーションを通し、国家試験合格レベルの学力を身につける。また、MCの意味を理解する。さらに近年のプレホスピタルケアの処置拡大に伴う高度化した救急資機材の機能や特性を把握し、取扱いの習熟、保守管理を含めた手技を学ぶ。					
講 義 内 容	1～10	礼式(物品の授受、隊の編成、停止間の礼式、行進間の礼式、始業点検、車両点検、救急車取り扱い説明、展示)			
	11～18	結索法、包帯法(本結び、モヤ結び、ハの字結び、巻き結び、その他結索全般) 三角巾法(全巾、半巾、たたみ三角巾、その他)、巻軸包帯、展示			
	19～23	徒手搬送法(ファイヤーマンズキャリア法、バックストラップ法、サドルバック法、ヒューマンチェーン、組み手搬送、両手搬送、抱き上げ搬送、支持搬送、救出搬送、視力障害歩行体験)			
	24～35	担架搬送法(メインストレッチャー、サブストレッチャー、布担架、スクープストレッチャー、バックボード、曳航法、担架収容法、車内収容法、ストレッチャー上での固定)			
	36～40	保温法(毛布1・2・3枚法、アルミシート法、冷電法、温電法) 止血法(直接圧迫止血、間接圧迫止血、止血帯、止血棒、ターニケット)			
	40～50	体位管理(ストレッチャー上での仰臥位、昏睡体位、トレンデレンブルグ位、逆トレンデレンブルグ位、起座位、半座位、展示) 固定法(副子固定、アルフェンスシーネ、マジックギプス、ポリネック)			
	51～65	観察(環境観察、出血、嘔吐、顔貌、失禁、四肢変形) (意識(JCS、GCS)、呼吸(聴診器)、脈拍、血圧体温、瞳孔(ペンライト)、展示			
	66～75	気道管理(食道閉鎖式エアウェイ、ラリングアルマスク、気管挿管の手技、イージーキャップの使用法、EDDチェッカーの使用法、カブノメーターの構造・使用方法)			
	76～85	静脈路確保、薬剤投与(輸液セットの設定、静脈路の知識、必要な資器材、アドレナリンの知識、薬剤投与の適応、静脈路確保の指示要請ならびに救命士報告、展示)			
	86～113	隊での活動			

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 G P A (新 評 価)	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考				

＜2024年度 救急救命士学科 救急救命士コース シラバス＞

科目名	臨床検査			学年	1
		単位数	1	コマ数	8
教科目標 臨床検査の目的、意義、種類、検査方法について理解を深める。					
講 義 内 容	1	臨床検査概論			
	2	一般検査、血液検査			
	3	凝固検査、輸血・血液型検査			
	4	免疫検査、生化学検査			
	5	生化学検査、微生物検査、緊急検査			
	6	生理機能検査			
	7	生化学検査、病理・細胞診検査、画像検査			
	8	画像検査、まとめ			

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考				

＜2024年度 救急救命士学科 救急救命士コース シラバス＞

科目名		一般知能・一般知識 I		学年	1
		単位数	6	コマ数	45
教科目標					
将来の就職試験でも必要となる一般知能・一般知識の基礎知識を会得する。					
講 義 内 容	1	社会科学(政治(国会・内閣・人権など))			
	2	社会科学(政治(国会・内閣・人権など))			
	3	社会科学(政治(国会・内閣・人権など))			
	4	社会科学(政治(国会・内閣・人権など))			
	5	社会科学(政治(国会・内閣・人権など))			
	6	社会科学(経済(市場経済・金融と財政など))			
	7	社会科学(経済(市場経済・金融と財政など))			
	8	社会科学(経済(市場経済・金融と財政など))			
	9	社会科学(経済(市場経済・金融と財政など))			
	10	社会科学(経済(市場経済・金融と財政など))			
	11	人文科学(日本史)			
	12	人文科学(日本史)			
	13	人文科学(日本史)			
	14	人文科学(世界史)			
	15	人文科学(世界史)			
	16	人文科学(世界史)			
	17	人文科学(地理)			
	18	人文科学(地理)			
	19	人文科学(地理)			
	20	人文科学(地理)			
	21	人文科学(文学)			
	22	人文科学(芸術)			
	23	判断推理			
	24	判断推理			
	25	判断推理			
	26	判断推理			
	27	判断推理			
	28	数的推理			
	29	数的推理			
	30	数的推理			

31	数的推理
32	数的推理
33	文章理解・資料解釈(現代文)
34	文章理解・資料解釈(現代文)
35	文章理解・資料解釈(古文)
36	文章理解・資料解釈(英文)
37	文章理解・資料解釈(数表・グラフ)
38	自然科学(物理)
39	自然科学(物理)
40	自然科学(化学)
41	自然科学(化学)
42	自然科学(化学)
43	自然科学(生物)
44	自然科学(地学)
45	自然科学(地学)

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 評 価 (G P A)	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考				

＜2024年度 救急救命士学科 救急救命士コース シラバス＞

科目名		医学概論		学年	1
		単位数	1	コマ数	8
教科目標					
医学の本質、医学の発達、医療従事者の倫理を説明できる。 自然科学とは何かを理解し、客観性、再現性、普遍性の重要性を理解する。					
講 義 内 容	1	人間と人間生活			
	2	科学的思考の基礎			
	3	生命倫理と医の倫理			
	4	生命倫理に関する原則			
	5	生命倫理の考え方と医療の実際			
	6	傷病者の権利を守る立場から			
	7	救急救命士の職業倫理			
	8	救急救命士の職業倫理			

評価方法		終講試験など				
評 価 基 準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。				
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。				
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			単位認定	
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。				
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。				
備考						

＜2024年度 救急救命士学科 救急救命士コース シラバス＞

科目名	解剖学・生理学			学年	1
		単位数	8	コマ数	60
教科目標 人体の構造と機能を中心とした基本的内容を理解する。					
講 義	1	解剖学とは(解剖学における用語・医学の基礎としての解剖学)			
	2	生理学とは(生理学における用語・医学の基礎としての生理学)			
	3	細胞と組織			
	4	細胞と組織			
	5	細胞と組織			
	6	細胞と組織			
	7	皮膚と膜			
	8	皮膚と膜			
	9	皮膚と膜			
	10	皮膚と膜			
	11	血液			
	12	血液			
	13	血液			
	14	血液			
	15	循環器系			
	16	循環器系			
	17	循環器系			
	18	循環器系			
	19	呼吸器系			
	20	呼吸器系			
	21	呼吸器系			
	22	呼吸器系			
	23	消化器系			
	24	消化器系			
	25	消化器系			
	26	消化器系			
	27	泌尿器系			
	28	泌尿器系			
	29	泌尿器系			
	30	泌尿器系			

内 容	31	内分泌系
	32	内分泌系
	33	内分泌系
	34	内分泌系
	35	生殖器系
	36	生殖器系
	37	生殖器系
	38	生殖器系
	士標 ²	骨格系
	40	骨格系
	41	骨格系
	42	骨格系
	43	筋系
	44	筋系
	45	筋系
	46	筋系
	47	神経系
	48	神経系
	49	神経系
	50	神経系
	51	感覚器系
	52	感覚器系
	53	感覚器系
	54	感覚器系
	55	免疫系
	56	免疫系
	57	免疫系
	58	免疫系
	59	解剖学まとめ
	60	生理学まとめ

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 評 価 （ G P A ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考				

＜2024年度 救急救命士学科 救急救命士コース シラバス＞

科目名		患者搬送		学年	1	
		中田 敏宏	単位数	1	コマ数	8
教科目標						
通信指令室の役割、口頭指導の概念・方法、活動記録、他機関との連携について説明できる。 病院前救護の役割、概要、救急救命士の医療関係職種としての責任を説明できる。 出動～現場の流れ、状況・初期評価、現場～救急自動車収容・医療機関収容の搬送方法を理解する						
講 義 内 容	1	消防機関における救急活動の流れ				
	2	救急救命士の役割と責任				
	3	現場活動の基本				
	4	搬送総論				
	5	搬送方法				
	6	器具を用いた搬送				
	7	搬送手順				
	8	ヘリコプターへの傷病者の搬入と搬出、事故車両からの救出方法				

評価方法		終講試験など			
評 価 基 準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考	※実務経験のある教員等による授業科目となる。				

＜2024年度 救急救命士学科 救急救命士コース シラバス＞

科目名		看護概論			学年	1
		三瓶 泰子	単位数	1	コマ数	8
教科目標						
医療における看護の位置づけと役割、在宅療法の概念、種類、対応について説明できる。 傷病者とのコミュニケーションの技法、医療機関とのコミュニケーションの要点を説明できる。 事故の発生におけるヒューマンエラー、インシデント・アクシデントのハインリッヒの法則を説明できる						
講義内容	1	接遇とコミュニケーション				
	2	対象に応じたコミュニケーション、救急活動でのコミュニケーション				
	3	安全管理と事故対応				
	4	感染予防				
	5	在宅療法とは、在宅療法への対応（HOT、在宅人工呼吸、気管切開）				
	6	在宅療法への対応（植え込み型ペースメーカー、経管栄養、IHV）				
	7	在宅療法への対応（血液透析、腹膜透析、尿道カテーテル、人工肛門）				
	8	講義の復習、国家試験の過去問解説、終講試験について				

評価方法		終講試験など				
評価基準	新GPA（新評価）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。				
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。				
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。				単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。				
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。				
備考		※実務経験のある教員等による授業科目となる。				

＜2024年度 救急救命士学科 救急救命士コース シラバス＞

科目名	救急災害医療			学年	1
		単位数	1	コマ数	8
教科目標 わが国における救急自動車による救急搬送の現状、概要の理解。 救急医療機関の役割と要件の理解。 災害の定義、分類の理解。					
講 義 内 容	1	救急医療体制(病院前医療)			
	2	救急医療体制(救急医療システム、救急医療情報)			
	3	災害医療体制(トリアージ)			
	4	災害医療体制(大規模災害、特殊災害)			
	5	病院前医療体制(救命の連鎖、市民による一次救命処置)			
	6	病院前医療体制(市民教育、メディカルコントロール)			
	7	救急救命士に関する法令			
	8	救急救命士の養成と生涯教育			

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 G P A 新 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考				

＜2024年度 救急救命士学科 救急救命士コース シラバス＞

科目名	呼吸器官			学年	1
		単位数	2	コマ数	15
教科目標 呼吸系の役割、構造、機能、仕組み、ガス交換、調節を理解する。 呼吸不全の概念、基本的病態の説明、呼吸不全症例・緊急度が高い所見を列挙できる。 呼吸困難の程度、分類、随伴症候、観察の要点の説明ができる。					
講 義 内 容	1	呼吸器系の構成と役割			
	2	呼吸、気道			
	3	胸郭、肺			
	4	肺胞でのガス交換 体内での酸素の働き 呼吸の調節			
	5	呼吸不全総論 呼吸運動の障害			
	6	気道の障害 肺胞の障害 肺間質の障害			
	7	呼吸困難定義・概念			
	8	分類 呼吸器による分類 程度による分類			
	9	原因疾患 随伴症候			
	10	緊急度・重症度の判断			
	11	喀血定義・分類 喀血による影響			
	12	判別を要する病態 緊急度・重症度の判断			
	13	現場活動 医療機関選定			
	14	呼吸系疾患総論 呼吸不全 上気道の疾患 下気道と肺胞の疾患			
	15	感染症 胸膜疾患 その他の呼吸系疾患			

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考				

＜2024年度 救急救命士学科 救急救命士コース シラバス＞

科目名		公衆衛生学		学年	1
		単位数	1	コマ数	8
教科目標					
公衆衛生学の基礎知識を得る。 現象を捉え評価するデータを読む力を養う。 救急救命士国家試験に求められる公衆衛生学に関する課題への理解力を養う。					
講 義 内 容	1	公衆衛生学の概念			
	2	公衆衛生学の概念進歩			
	3	保険指標			
	4	公衆衛生学に関する行政組織			
	5	人口動態			
	6	疾病構造の変化			
	7	医療供給体制と環境保健			
	8	学校保健、母子保健、地域保健、高齢者保健、精神保健福祉及び講義のまとめ			

評価方法		終講試験など				
評 価 基 準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。				
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。				
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			単位認定	
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。				
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。				
備考						

＜2024年度 救急救命士学科 救急救命士コース シラバス＞

科目名	処置論Ⅰ				学年	1
	池田淳也 吉田英明 中田敏宏 境純平	単位数	6	コマ数	45	
教科目標 救急現場での使用資機材の基本操作・使用方法を理解する。 資機材の使用方法から現場での対応能力を向上させることができる。 誤った使用方法による傷病者への侵襲を理解し現場での事故防止策を各自で練ることができる。						
講 義 内	1	パルスオキシメータ				
	2	カプノメータ				
	3	カプノメータ				
	4	聴診器				
	5	血圧計				
	6	心電図				
	7	心電図				
	8	体温計				
	9	気道確保				
	10	気道確保				
	11	気道異物除去				
	12	気道異物除去				
	13	口腔内の吸引				
	14	声門上気道デバイスを用いた気道確保				
	15	声門上気道デバイスを用いた気道確保				
	16	気管挿管				
	17	気管挿管				
	18	気管挿管				
	19	気管吸引				
	20	酸素投与				
	21	酸素投与				
	22	人工呼吸				
	23	人工呼吸				
	24	胸骨圧迫				
	25	胸骨圧迫				

容	26	自動式心マッサージ機の使用
	27	除細動
	28	除細動
	29	静脈路確保と輸液
	30	静脈路確保と輸液
	31	アドレナリン投与
	32	アドレナリン投与
	33	自己注射用アドレナリンの投与
	34	体位管理
	35	体位管理
	36	体温管理
	37	止血
	38	止血
	39	創傷処置
	40	創傷処置
	41	固定
	42	固定
	43	固定
	44	産婦人科領域の処置
	45	産婦人科領域の処置

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
		備考		
※実務経験のある教員等による授業科目となる。				

＜2024年度 救急救命士学科 救急救命士コース シラバス＞

科目名	情報科学 I			学年	1
		単位数	2	コマ数	30
教科目標 社会に出て必要なコンピューターの基礎知識 (Word・Excel・PowerPoint等) や文章作成及びプレゼンテーション作成をコンピューターでできるようにする					
講 義	1	導入(起動方法・ウォーミングアップ)キートレーニング・入力練習			
	2	キートレーニング・入力練習・ビジネス文書の作成			
	3	ビジネス文書の作成・編集			
	4	単語登録・Word書式設定			
	5	Word段落書式・ヘッダーフッター			
	6	Word文字種の変換・タブ機能			
	7	Word特殊記号の入力・タブ機能・表作成の練習			
	8	Word表作成機能-応用			
	9	Word図形描画			
	10	Word図形描画の応用・Wordまとめ			
	11	PowerPoint概要・基本操作確認・プレゼンテーションの作成			
	12	PowerPoint基本操作確認・自己PRの作成			
	13	自己PRの作成・発表			
	14	Word復習			
	15	入力テスト・前期終了前課題			

内 容	16	PowerPointの復習と活用・画面切り替え・アニメーション
	17	PowerPoint-マスター操作・内容最終確認-作成
	18	PowerPoint作成上の注意・発表方法の注意点確認
	19	PowerPoint発表準備・グループ発表・全体発表の役割分担
	20	PowerPoint発表
	21	Excel-導入
	22	Excel基本操作-確認・書式設定
	23	Excel書式設定・絶対参照
	24	Excel絶対参照復習・RANK関数・ページ設定
	25	Excel並べ替え・条件付き書式・ページ設定・IF関数
	26	Excel棒グラフの作成・IF関数・条件付き書式の応用
	27	Excel円グラフの作成・IF関数の応用
	28	Excelフィルタ・テーブル・復習
	29	ExcelIF関数-活用・ページ設定-活用・COUNTIF関数・入力規則
	30	Excel復習課題

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 評 価 （ G P A ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考				

＜2024年度 救急救命士学科 救急救命士コース シラバス＞

科目名	心臓・血管			学年	1
		単位数	2	コマ数	15
教科目標 心臓の構造と役割、動脈と静脈、リンパ管の解剖と役割、自律神経や内分泌系を説明できる。 心不全の定義、原因、心機能、症候、慢性・急性心不全の処置・搬送・医療機関選定を説明できる。 心不全の疫学、病因、病態、症候、合併症、現場活動の説明と心電図の原理、意義、判読ができる。					
講 義 内 容	1	循環系の構成と役割 心臓			
	2	脈管 循環の制御			
	3	心不全総論 病態生理			
	4	症候 種類			
	5	慢性心不全の急性増悪			
	6	現場活動			
	7	胸痛の定義・概念 発生機序 原因疾患 緊急度・重症度の判断 現場活動			
	8	動悸の定義・概念 発生機序 原因疾患 随伴症候 緊急度・重症度の判断 現			
	9	循環系疾患総論			
	10	動脈硬化 うっ血性心不全			
	11	虚血性心疾患 心筋疾患			
	12	心膜疾患 不整脈 その他の心疾患			
	13	血管疾患 高血圧			
	14	心電図の解読 頻脈性不整脈の心電図			
	15	徐脈性不整脈 心筋の虚血性変化 その他の心電図異常			

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考				

＜2024年度 救急救命士学科 救急救命士コース シラバス＞

科目名	神経器官			学年	1
		単位数	1	コマ数	8
教科目標 神経の解剖・生理と主な疾患の症状・救急処置などを中心に学ぶ。					
講 義 内 容	1	神経・感覚器			
	2	運動障害が起こる理由 種類と病態			
	3	感覚障害が起こる理由 種類と病態			
	4	応急処置と搬送時の注意点			
	5	神経の構造と機能			
	6	観察と判断			
	7	おもな疾患			
	8	まとめ			

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考				

＜2024年度 救急救命士学科 救急救命士コース シラバス＞

科目名		生化学		学年	1
		単位数	1	コマ数	8
教科目標					
生体を構成する物質の構造と機能、生体内での代謝や疾病時の変化などについての基本的事項を学ぶ。					
講 義 内 容	1	細胞の構造と機能			
	2	体液（組成、細胞外液・内液、電解質）			
	3	体液（酸塩基平衡、浸透圧、電解質と体液調節の仕組み）			
	4	栄養と代謝（栄養素、エネルギーを得る仕組み）			
	5	外呼吸（大気、気道と肺胞、血液の酸素化と二酸化炭素の放出）			
	6	循環（酸素運搬と臓器血流） 組織酸素代謝 内部環境（体液・電解質の役割とその調節）			
	7	内部環境（酸塩基平衡・浸透圧・体温の役割とその調節）			
	8	疾患の原因（主因と誘因、内因と外因、遺伝性と発症性、先天性と後天性）			

評価方法		終講試験など				
評 価 基 準	新 G P A 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。				
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。				
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			単位認定	
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。				
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。				
備考						

＜2024年度 救急救命士学科 救急救命士コース シラバス＞

科目名	生命医学倫理			学年	1
		単位数	1	コマ数	8
教科目標 市民社会の成立、生命の尊厳、社会規範、宗教哲学等生命倫理をめぐる基本問題を理解する。					
講 義 内 容	1	インフォームドコンセント			
	2	中絶と出生前診断・生殖技術			
	3	脳死と臓器移植			
	4	安楽死と治療停止			
	5	遺伝子解読・医療問題			
	6	患者－医療関係者			
	7	看護と介護			
	8	まとめ			

評価方法		終講試験など			
評価基準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		}	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

＜2024年度 救急救命士学科 救急救命士コース シラバス＞

科目名	体育 I			学年	1
		単位数	2	コマ数	30
教科目標 体力を増強し、健全な身体発達を図れる。 消防就職を見据えた体力・筋力トレーニングが出来る。 就職後の消防・救急活動に耐えうる身体作りが出来る。					
講 義 内	1	オリエンテーション			
	2	ランニング			
	3	自重によるトレーニング			
	4	マシンによるトレーニング			
	5	小隊対抗リレー			
	6	ストレッチ			
	7	シャトルラン			
	8	ランニング			
	9	自重によるトレーニング			
	10	マシンによるトレーニング			
	11	小隊対抗リレー			
	12	ストレッチ			
	13	シャトルラン			
	14	ランニング			
	15	自重によるトレーニング			
	16	マシンによるトレーニング			

内 容	17	小隊対抗リレー
	18	ストレッチ
	19	シャトルラン
	20	ランニング
	21	自重によるトレーニング
	22	マシンによるトレーニング
	23	小隊対抗リレー
	24	ストレッチ
	25	シャトルラン
	26	ランニング
	27	自重によるトレーニング
	28	マシンによるトレーニング
	29	小隊対抗リレー
	30	ストレッチ

評価方法		終講試験など			
評価基準	新 評 価 （ G P A ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		}	単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

＜2024年度 救急救命士学科 救急救命士コース シラバス＞

科目名		シミュレーション実習Ⅱ		学年	2
		単位数	8	コマ数	180
教科目標 救急隊員の責務、心構え、知識の向上を実技及びシミュレーションを通し、国家試験合格レベルの学力を身につける。また、MCの意味を理解する。さらに近年のプレホスピタルケアの処置拡大に伴う高度化した救急資機材の機能や特性を把握し、取扱いの習熟、保守管理を含めた手技を実習を通して学ぶ。					
講 義 内 容	1～8	観察(疾患) 脳・神経系、呼吸器系、循環器系			
	9～30	観察(外傷)JPTECの活動(初期評価・全身観察・車内活動・継続観察・詳細観察)			
	31～40	JRC蘇生ガイドランによる心肺蘇生法(乳児、小児、成人の気道確保)			
	40～47	用手による気道確保とBVM法による人工呼吸			
	48～58	異物除去法(マギール鉗子、喉頭鏡、背部叩打法(乳児、小児、成人))			
	59～63	酸素投与法 (O2マスク、カヌラ、ベンチュリーマスク、気管切開用マスク)			
	64～75	チュービング法(LM、TwowayTyube、気管内挿管、気管切開用チューブの取扱い)			
	76～90	静脈路確保法			
	91～120	訓練礼式(各個訓練・小隊訓練)			
	121～130	隊活動訓練(隊員間の連携・情報)			
	131～140	徽章式研究発表訓練(気管挿管・トリアージ・静脈路確保確保・JPTEC・内因性疾患)			
	141～159	除細動(心停止をきたす致死的不整脈)心室細動と心室頻拍の鑑別			
	160～170	除細動(心停止をきたす致死的不整脈)包括化指示による除細動			
	171～180	病院実習前授業(ストレッチャー・心電図・除細動器の取り扱い・清潔操作など)			

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考				

＜2024年度 救急救命士学科 救急救命士コース シラバス＞

科目名	ショック・循環不全			学年	2
	境純平 井手生朗	単位数	2	コマ数	15
教科目標 生命維持に重要な「ショック・循環不全」に対し、分類とその判断方法を知る。 ショックに伴い起こる生体反応、特に体液の移動による補整を理解する。 血圧低下に対し交感神経およびカテコラミンの働きを理解する。					
講 義 内 容	1	総論～定義と概念、種類と分類			
	2	総論～病態、ショックの判断			
	3	総論～各種ショックの判別、緊急度・重症度の判断、各種ショックの共通の観察と処置			
	4	循環血液量減少性ショック～発生機序、循環動態の変化、生体反応、体液変動			
	5	循環血液量減少性ショック～原因疾患、症候、現場活動、輸液			
	6	心原性ショック～原因疾患と発生機序、循環動態			
	7	心原性ショック～症候、現場活動			
	8	心外閉塞・拘束性ショック～原因疾患と発生機序			
	9	心外閉塞・拘束性ショック～症候			
	10	心外閉塞・拘束性ショック～現場活動、輸液			
	11	血液分布異常性ショック～種類と発生機序			
	12	血液分布異常性ショック～症候			
	13	外傷の病態生理 侵襲への反応 循環動態、炎症性メディエータ			
	14	外傷の病態生理 侵襲への反応 代償反応の破綻 急性期後の障害			
	15	外傷の病態生理 外傷に伴うショック 出血性ショック 非出血性ショック			

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考	※実務経験のある教員等による授業科目となる。			

＜2024年度 救急救命士学科 救急救命士コース シラバス＞

科目名		一般知能・一般知識Ⅱ		学年	2
		単位数	6	コマ数	45
教科目標					
将来の就職試験でも必要となる一般知能・一般知識の基礎知識を学ぶ。					
講義内容	1～7	社会科学 政治(国会・内閣・人権など)経済(市場経済・金融と財政など)			
	8～14	人文科学 日本史・世界史・地理・文学・芸術など			
	15～21	判断推理 集合・論理・位置関係など			
	22～28	数的推理 方程式・不等式・整数・図形など			
	29～35	文章理解・資料解釈 現代文・古文・英文・数表・グラフなど			
	36～42	適性試験 適性・作文など			
容	43～45	自然科学 物理・化学・生物・地学など			

評価方法	終講試験など				
評価基準	新GPA 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

＜2024年度 救急救命士学科 救急救命士コース シラバス＞

科目名		英語Ⅱ			学年	2	
		単位数		1	コマ数	8	
教科目標							
国際社会に対応し得る能力を養い、英会話の基礎を身に付ける。また医療従事者として、人体の部位の英単語及び医療的な英会話を身に付ける。							
講 義 内 容	1	海外の救急・教科書紹介					
	2	日常の英単語・発音					
	3	日常の簡単な英会話					
	4	身体部位の英単語・発音					
	5	医療英会話					
	6	患者との英会話					
	7	英語映画ビデオから会話を学ぶ					
	8	まとめ					
評価方法		終講試験など					
評 価 基 準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。				}	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。					
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。					単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。					
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。					
備考							

＜2024年度 救急救命士学科 救急救命士コース シラバス＞

科目名		化学損傷			学年	2
		単位数		1	コマ数	8
教科目標						
化学損傷の病態生理と救急処置法などを中心に学ぶ。						
講 義 内 容	1	原因と病態				
	2	化学損傷の特徴				
	3	症状と処置				
	4	皮膚所見の特徴				
	5	汚染衣服の除去				
	6	洗浄				
	7	中和剤				
	8	搬送時の注意点				

評価方法		終講試験など				
評 価 基 準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。				
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。				
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。				単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。				
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。				
備考						

＜2024年度 救急救命士学科 救急救命士コース シラバス＞

科目名	観察			学年	2
		単位数	2	コマ数	15
教科目標 救急医療における所見の把握・検査・処置方法・救急医療体制を中心に、現場観察での重要観察ポイントを学ぶ。					
講 義 内 容	1	救急活動の基本			
	2	初期評価と対応			
	3	2次評価と対応			
	4	外見の観察			
	5	バイタルサイン関連事項の観察			
	6	神経学的所見の観察			
	7	観察法の基本			
	8	皮膚の観察			
	9	頭部・顔面・頸部の観察			
	10	胸部の観察			
	11	腹部の観察			
	12	骨盤・四肢の観察			
	13	緊急度と重症度			
	14	判断の基準			
	15	判断後の対応			

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考				

＜2024年度 救急救命士学科 救急救命士コース シラバス＞

科目名		消化器官		学年	2
		単位数	2	コマ数	15
教科目標					
1～7は解剖生理 8～15は症候・病態 を中心に理解する。					
講 義 内 容	1	消化管の解剖(1年生の復習)			
	2	消化管の役割			
	3	口腔・咽頭 誤飲と誤嚥			
	4	食道 胃			
	5	小腸 膵液 胆汁			
	6	大腸 肝臓 門脈			
	7	膵臓			
	8	11. 腹痛 A. 発生機序 B. 原因疾患 C. 部位 D. 既往歴			
	9	F 緊急度・重症度の判断 G 現場活動			
	10	12. 吐血・下血 p775 4. 消化系疾患(B 歯・口腔疾患まで)			
	11	C 食道疾患 1. 食道静脈瘤破裂 2. マロリーワイス 3. 特発性食道破裂			
	12	D 胃・十二指腸疾患 1. 胃・十二指腸潰瘍 2. 急性胃粘膜病変 3. 急性胃腸炎 4. アニサキス			
	13	5. 胃がん E 腸疾患 1. イレウス 2. 上腸間膜動脈閉塞症 3. ヘルニア嵌頓			
	14	4. 急性虫垂炎 5. 大腸穿孔 6. 大腸憩室炎 7. 虚血性大腸炎 8. 大腸がん			
	15	9. IBD 10. 痔核 11. 急性腹膜炎 F 肝臓・胆嚢・膵臓の疾患			

評価方法		終講試験など			
評価基準	新 G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

＜2024年度 救急救命士学科 救急救命士コース シラバス＞

科目名		心肺停止		学年	2
		単位数	2	コマ数	15
教科目標					
心肺停止の判断や病態生理、心肺蘇生法などを中心に学ぶ。 最新のJRC蘇生ガイドライン及び心肺蘇生法の歴史を学ぶ。					
講 義 内 容	1	総論～定義・概念			
	2	総論～疫学・JRCガイドライン(1)			
	3	総論～ウツタイン様式・JRCガイドライン(2)			
	4	心肺停止に至る病態と原因～心肺停止に至る病態			
	5	心肺停止に至る病態と原因～生体酸素状況			
	6	心肺停止に至る病態と原因～主な原因疾患			
	7	心電図分類～心室細動/無脈性心室頻拍			
	8	心電図分類～無脈性電気活動			
	9	心電図分類～心静止			
	10	心肺蘇生中の循環～胸骨圧迫による循環発生の機序			
	11	心肺蘇生中の循環～全身の循環・冠循環			
	12	心肺蘇生中の循環～脳循環・胸骨圧迫の効果に影響する因子			
	13	心拍再開後の病態～虚血による臓器障害			
	14	心拍再開後の病態～再灌流障害			
	15	心拍再開後の病態～心拍再開後の回復過程・回復に影響する因子			

評価方法		終講試験など			
評価基準	新 G P A (評 価)	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

＜2024年度 救急救命士学科 救急救命士コース シラバス＞

科目名		体育Ⅱ		学年	2
		単位数	2	コマ数	30
教科目標 体力を増強し、健全な身体発達を図れる。 消防就職を見据えた体力・筋力トレーニングが出来る。 就職後の消防・救急活動に耐えうる身体作りが出来る。					
講 義 内 容	1	説明(資機材・施設・準備体操・トレーニング方法等)			
	2	ランニング			
	3	自重による筋力トレーニング(腕立て伏せ、腹筋、背筋、上半身強化、下半身強化)			
	4	マシンによる筋力トレーニング			
	5	小隊対抗リレー			
	6	ストレッチ			
	7	ダッシュ連続による体力練成			
	8	ランニング			
	9	自重による筋力トレーニング(腕立て伏せ、腹筋、背筋、上半身強化、下半身強化)			
	10	マシンによる筋力トレーニング			
	11	小隊対抗リレー			
	12	ストレッチ			
	13	ダッシュ連続による体力練成			
	14	ランニング			
	15	自重による筋力トレーニング(腕立て伏せ、腹筋、背筋、上半身強化、下半身強化)			
	16	マシンによる筋力トレーニング			
	17	小隊対抗リレー			
	18	ストレッチ			
	19	ダッシュ連続による体力練成			
	20	ランニング			
	21	自重による筋力トレーニング(腕立て伏せ、腹筋、背筋、上半身強化、下半身強化)			
	22	マシンによる筋力トレーニング			
	23	小隊対抗リレー			
	24	ストレッチ			
	25	ダッシュ連続による体力練成			
	26	ランニング			
	27	自重による筋力トレーニング(腕立て伏せ、腹筋、背筋、上半身強化、下半身強化)			
	28	マシンによる筋力トレーニング			
	29	小隊対抗リレー			
	30	ストレッチ			

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
		備考		

＜2024年度 救急救命士学科 救急救命士コース シラバス＞

科目名		体液管理			学年	2
		単位数		1	コマ数	8
教科目標						
血液・体液の解剖生理と主な疾患の症状、救急処置などを中心に学ぶ。						
講義内容	1	血液・免疫系～血液、血球、血漿、骨髄の構造と機能				
	2	血液・免疫系～脾臓、止血と凝固、止血と凝固、免疫				
	3	血液・免疫系～総論、血液疾患、免疫疾患				
	4	代謝障害～糖質・脂質・蛋白質・の代謝異常、体液と電解質異常、酸塩基平衡・内分泌異常				
	5	その他の代謝異常				
	6	溺水～病態生理、観察と処置				
	7	熱中症～疫学、病態生理、観察、処置、搬送時の注意				
	8	偶発性低体温～発生機序と病態生理、観察、処置				

評価方法		終講試験など				
評価基準	新 （ G P A ） 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。				
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。				
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。				単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。				
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。				
備考						

＜2024年度 救急救命士学科 救急救命士コース シラバス＞

科目名		中毒/アレルギー			学年	2
		単位数		1	コマ数	8
教科目標						
中毒／アレルギーの病態生理と救急処置法などを中心に学ぶ。						
講 義 内 容	1	中毒物質と中毒経路				
	2	中毒の病態生理と観察・処置				
	3	医療品中毒				
	4	農薬中毒、工業薬品中毒				
	5	ガス中毒、アルコール中毒				
	6	自然毒中毒				
	7	家庭用品中毒、覚醒剤中毒				
	8	アレルギーの病態生理と観察・処置				

評価方法		終講試験など				
評 価 基 準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。				
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。				
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。				単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。				
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。				
備考						

＜2024年度 救急救命士学科 救急救命士コース シラバス＞

科目名		頭部・頸椎損傷			学年	2	
		単位数		1	コマ数	8	
教科目標							
頭部・頸部損傷の病態生理とJPTECに基づく観察、重症度判断、処置を中心に学ぶ。							
講 義 内 容	1	ロードアンドゴーの概念 ゴールデンアワーとトラウマバイパス					
	2	状況評価、感染防御、現場評価					
	3	初期評価 全身観察					
	4	詳細観察と継続観察 頸椎固定と全脊柱固定					
	5	頭部の解剖生理 一次損傷と二次損傷					
	6	脳浮腫、頭蓋内圧亢進					
	7	脳ヘルニア、頭蓋内出血 頭蓋骨骨折、頭蓋底骨折 脳振盪、脳挫傷、反衝損傷					
	8	頭部外傷の判断と処置					
評価方法		終講試験など					
評 価 基 準	新 （ G P P A ） 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。				}	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。					
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。					単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。					
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。					
備考							

＜2024年度 救急救命士学科 救急救命士コース シラバス＞

科目名		泌尿器・生殖器		学年	2
		単位数	1	コマ数	8
教科目標					
泌尿生殖器の解剖・生理と主な疾患の症状・救急処置などを中心に学ぶ。					
講 義 内 容	1	泌尿器系 構造と機能			
	2	生殖器系 構造と機能			
	3	血尿の原因と病態生理			
	4	観察と判断			
	5	症状の特徴			
	6	泌尿器系疾患			
	7	生殖器系疾患			
	8	まとめ			

評価方法		終講試験など			
評 価 基 準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

＜2024年度 救急救命士学科 救急救命士コース シラバス＞

科目名		免疫/代謝/炎症			学年	2
		単位数		1	コマ数	8
教科目標						
免疫不全や代謝異常・炎症の病態生理と救急法を学ぶ。						
講義内容	1	内分泌系～内分泌、内分泌器官				
	2	代謝・内分泌・栄養系疾患～総論、糖尿病とその合併症				
	3	代謝・内分泌・栄養系疾患～その他の代謝異常、内分泌疾患、栄養疾患				
	4	免疫(役割・仕組み・免疫系・アレルギー)1				
	5	免疫(役割・仕組み・免疫系・アレルギー)2				
	6	免疫疾患(アナフィラキシー・アレルギー・自己免疫疾患・膠原病)				
	7	感染症～総論、敗血症、結核、インフルエンザ				
	8	感染症～食中毒、輸入感染症、発疹性感染症、性病感染症、その他感染症				

評価方法		終講試験など				
評価基準	新GPA評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。				
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。				
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。				単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。				
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。				
備考						

＜2024年度 救急救命士学科 救急救命士コース シラバス＞

科目名		薬剤投与			学年	2
		単位数		1	コマ数	8
教科目標						
心肺停止傷病者の病態に応じて薬剤投与を的確に施行する知識を身に付ける。また薬剤投与に伴う危険認識、人体の影響						
講義内容	1	薬物総論				
	2	薬物の有害作用				
	3	救急救命処置に用いられる薬剤				
	4	アドレナリン・乳酸リンゲル・ブドウ糖				
	5	使用頻度の高い薬(1)				
	6	使用頻度の高い薬(2)				
	7	輸液・輸血製剤				
	8	保存と保守管理				

評価方法		終講試験など				
評価基準	新GPA (評価)	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。				
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。				
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。				単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。				
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。				
備考						

＜2024年度 救急救命士学科 救急救命士コース シラバス＞

科目名	臨床実習			学年	2
		単位数	4	コマ数	80
教科目標 救急救命士の行う救急救命処置は専門的な知識及び技能を要するため、救急医療を担当する医師の指導の下、病院内に於いて救急医療に関連した知識の応用と、救急救命処置に係わる技能の習得を主体に、医療現場の見学と医行為の介助等を通じて診療の補助に対する理解を深める。					
講 義 内 容		別紙 臨床実習要綱による。			

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
		備考		

＜2024年度 救急救命士学科 救急救命士コース シラバス＞

科目名		痙攣・脳圧亢進		学年	2
		単位数	1	コマ数	8
教科目標					
けいれん・脳圧亢進の病態とメカニズム及び救急処置法などを中心に学ぶ。					
講 義 内 容	1	重症脳障害～総論・発生機序・一次脳病変・二次脳病変			
	2	重症脳障害～頭蓋内圧亢進・脳ヘルニア・特殊な意識障害			
	3	意識障害～原因・随伴症候・判別を要する病態			
	4	意識障害～緊急度・重症度の判断・現場活動			
	5	痙攣～定義と概念・病態・種類・原因疾患			
	6	痙攣～随伴症候・判別を要する病態・緊急度・重症度の判断・現場活動			
	7	失神～定義と概念・原因疾患			
	8	失神～判別を要する病態・緊急度・重症度の判断・現場活動			
評価方法		終講試験など			
評 価 基 準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

＜2024年度 救急救命士学科 救急救命士コース シラバス＞

科目名		シミュレーション実習Ⅲ		学年	3
		単位数	8	コマ数	180
教科目標 実技試験・筆記試験にむけた、個人・チームでの取り組みをとおり、救急隊員、救急救命士としての活動、手技、知識、学力を身につける。また同時に、チーム協同で問題解決を目指すことの大切さを学ぶ。					
講 義 内 容	1～10	JPTEC			
	11～30	PEMEC			
	31～40	応急手当指導要領			
	41～43	分娩介助、新生児の処置（三瓶）			
	44～60	心肺停止前の輸液			
	61～70	血糖測定、ブドウ糖投与			
	71～90	特定行為の総合			
	91～120	心肺停止症例の現場活動			
	121～150	内因性症例の現場活動			
	151～180	外因性症例の現場活動			

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 G P A （ 新 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考				

＜2024年度 救急救命士学科 救急救命士コース シラバス＞

科目名		一般外傷		学年	3
		単位数	3	コマ数	23
教科目標					
外傷一般の病態生理、主な外傷、現場活動の理解。 さらに大規模災害や病院前救護を含めた救急医療体制全般を復習する。					
講 義 内 容	1	救急医療体制(病院前救護、救急医療システム)			
	2	多数傷病者対応 トリアージ 大規模災害 特殊災害			
	3	感染防御 救急資器材・救急車内の洗浄や消毒 感染事故とその対応			
	4	外傷の疫学 受傷機転とエネルギー 外傷の分類			
	5	主な受傷形態			
	6	外傷の病態生理			
	7	外傷の現場活動 JPTEC(目的、歴史も含める)			
	8	頭部外傷(特徴)			
	9	頭部外傷(主な頭部外傷)			
	10	顔面・頸部外傷			
	11	脊椎・脊髄外傷			
	12	胸部外傷(特徴、主な外傷1)			
	13	胸部外傷(主な外傷2、現場活動)			
	14	腹部外傷(特徴、主な外傷1)			
	15	腹部外傷(主な外傷2、現場活動)			
	16	骨盤・四肢外傷			
	17	皮膚・軟部組織外傷(分類、現場活動)			
	18	皮膚・軟部組織外傷(クラッシュ症候群、コンパートメント症候群など)			
	19	小児・高齢者・妊婦の外傷			
	20	熱傷 化学損傷 電撃症			
	21	縊頸 絞頸			
	22	刺咬傷			
	23	試験対策(まとめ)			

評価方法		終講試験など			
評価基準	新GPA評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

＜2024年度 救急救命士学科 救急救命士コース シラバス＞

科目名	一般知能・一般知識Ⅲ			学年	3
		単位数	3	コマ数	23
教科目標 将来の就職試験でも必要となる一般知能・一般知識の基礎知識を学ぶ。					
講 義 内 容	1～3	社会科学 政治(国会・内閣・人権など)経済(市場経済・金融と財政など)			
	4～7	人文科学 日本史・世界史・地理・文学・芸術など			
	8～10	判断推理 集合・論理・位置関係など			
	11～14	数的推理 方程式・不等式・整数・図形など			
	15～18	文章理解・資料解釈 現代文・古文・英文・数表・グラフなど			
	19～21	適性試験 適性・作文など			
	22～23	自然科学 物理・化学・生物・地学など			

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考				

＜2024年度 救急救命士学科 救急救命士コース シラバス＞

科目名		顔面外傷			学年	3
		井手 生朗	単位数	1	コマ数	8
教科目標						
顔面の解剖生理、外傷の特徴、救急処置法などを中心に学ぶ。						
講 義 内 容	1	顔面の解剖生理。				
	2	顔面損傷、吹き抜け骨折。				
	3	頸部損傷、軟部組織損傷。				
	4	口腔内・気道損傷。				
	5	症状と処置。				
	6	判断と処置、搬送。				
	7	気道異物。				
	8	消化管異物。				

評価方法		終講試験など				
評 価 基 準	新 （ G P A ） 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。				
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。				
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。				単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。				
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。				
※実務経験のある教員等による授業科目となる。						
備考						

＜2024年度 救急救命士学科 救急救命士コース シラバス＞

科目名	救急医学総括			学年	3
		単位数	6	コマ数	45
教科目標 国家試験形式の試験・模擬試験(10試験を対象予定)等を、学生や教員の目線で分析・解説することで、 ○国家試験に合格する力をつける。 ○個人やグループで、問題を分析・検討し、答えを導き出す力をつける。 ○救急医療や、それを取り巻く社会環境の現状・課題に目を向ける習慣をつける。					
講 義 内 容	1～45	テキスト全範囲の国家試験対策			

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 G P A （ 新 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考				

＜2024年度 救急救命士学科 救急救命士コース シラバス＞

科目名	救急用自動車同乗実習			学年	3
		単位数	1	コマ数	24
教科目標 各消防本部で実際に救急車に同乗し救急処置の実践的な知識・技術と接遇を身につける。					
講 義 内 容		救急車に同乗しての実習（出動）、待機中の訓練・研修など、実習指導者の指示で行う。			

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 （ G P A ） 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考				

＜2024年度 救急救命士学科 救急救命士コース シラバス＞

科目名	高齢者疾患			学年	3
		単位数	1	コマ数	8
教科目標 高齢者疾患の特殊性、救急処置法などを中心に学ぶ。					
講 義 内 容	1	高齢者の特徴、加齢による変化。			
	2	予備能力、修復力の低下。			
	3	観察・問診のポイント。			
	4	高齢者によくみられる救急疾患。			
	5	脳血管障害、認知症。			
	6	虚血性心疾患、肺気腫、COPD。			
	7	誤嚥性肺炎、骨粗しょう症。			
	8	動脈閉塞性疾患、前立腺肥大、その他。			

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考				

＜2024年度 救急救命士学科 救急救命士コース シラバス＞

科目名		産婦人科・周産期疾患			学年	3		
		単位数		1	コマ数	8		
教科目標								
産婦人科疾患、周産期疾患の特殊性と救急処置等を中心に学ぶ。								
講 義 内 容	1	妊娠と関連した疾患の特徴。						
	2	正常分娩の機序。						
	3	分娩の取り扱いと母体搬送。						
	4	観察・問診のポイント。						
	5	流産、子宮外妊娠。						
	6	妊娠中毒症、前置胎盤。						
	7	常位胎盤早期剥離、子宮破裂。						
	8	弛緩出血、羊水塞栓。						
評価方法		終講試験など						
評 価 基 準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。				}	単位認定	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。						
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。						
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。						
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。						
備考								

＜2024年度 救急救命士学科 救急救命士コース シラバス＞

科目名		骨盤四肢外傷		学年	3
		単位数	1	コマ数	8
教科目標					
運動器の解剖生理、骨盤四肢の外傷、主な疾患を学ぶ。					
講 義 内 容	1	疾患の理解に必要な解剖・生理。			
	2	筋・骨格系疾患にみられる症状の特徴。			
	3	脊椎疾患・外傷。			
	4	関節炎、横紋筋融解症。			
	5	骨折の形態。			
	6	骨折の出血量・重症度・処置。			
	7	骨盤骨折の症状・病態と観察。			
	8	骨盤骨折時の対応。			

評価方法	終講試験など				
評 価 基 準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			}
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

＜2024年度 救急救命士学科 救急救命士コース シラバス＞

科目名		社会保障・社会福祉			学年	3
		単位数		1	コマ数	8
教科目標						
社会保障の仕組みと費用について説明できる。 医療保険・介護保険・年金制度・生活保護について説明できる。 障害者の福祉、虐待（児童虐待、高齢者虐待、配偶者からの暴力）について説明できる。						
講 義 内 容	1	社会保障、社会福祉の理念				
	2	社会保障、社会福祉を担当する行政組織				
	3	関連施設、社会保障の費用				
	4	社会保障制度の理念				
	5	医療保険制度、介護保険制度、年金制度				
	6	生活保護、児童福祉				
	7	高齢者福祉、母子および寡婦福祉				
	8	障害者福祉				

評価方法		終講試験など				
評 価 基 準	新 （ G P A ） 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。				
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。				
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。				単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。				
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。				
備考						

＜2024年度 救急救命士学科 救急救命士コース シラバス＞

科目名		処置論Ⅱ			学年	3
		工藤 朝生	単位数	1	コマ数	8
教科目標						
平成26年4月に救急救命処置に追加された「心肺停止前の静脈路確保と輸液、血糖測定とブドウ糖投与」の理論を学ぶとともに、今後予想される課題を含めた対応についての実践的な知識を検討する。						
講義内容	1	意識障害の鑑別(1)				
	2	意識障害の鑑別(2)				
	3	意識障害の鑑別(3)				
	4	ブドウ糖投与				
	5	血糖測定とブドウ糖投与のプロトコル				
	6	薬剤投与プロトコル				
	7	静脈路確保の実際				
	8	拡大処置の実際と今後の課題				

評価方法		終講試験など				
評価基準	新 評 価 （ G P A ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。				
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。				
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。				単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。				
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。				
※実務経験のある教員等による授業科目となる。						
備考						

＜2024年度 救急救命士学科 救急救命士コース シラバス＞

科目名		小児・新生児疾患			学年	3
		単位数		1	コマ数	8
教科目標						
小児、新生児の、解剖生理的特長、特有疾患等の理解						
講 義 内 容	1	小児期の発育発達 新生児疾患 新生児救急搬送				
	2	けいれん性疾患 髄膜炎 脳炎・脳症				
	3	呼吸器疾患				
	4	腹部疾患(主に急性腹症をきたす疾患)				
	5	腎疾患 腸炎 溶血性尿毒症症候群 乳児ボツリヌス症				
	6	川崎病 感染症				
	7	乳幼児突然死症候群 被虐待児症候群 小児の外傷				
	8	小児救急医療 新生児搬送 先天異常 不慮の事故 小児がん				

評価方法		終講試験など				
評 価 基 準	新 評 価 （ G P A ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。				
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。				
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			単位認定	
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。				
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。				
備考						

＜2024年度 救急救命士学科 救急救命士コース シラバス＞

科目名		精神障害			学年	3
		三瓶 泰子	単位数	1	コマ数	8
教科目標						
精神障害の特殊性の救急搬送時の留意点などを中心に学ぶ。						
講 義 内 容	1	精神障害・精神病の定義。				
	2	内因性・外因性精神障害。				
	3	心因性精神障害、精神症状。				
	4	救急活動、搬送の原則。				
	5	自殺企図、昏迷・混迷・興奮への対応。				
	6	病院選定と入院形式。				
	7	悪性症候群、統合失調症。				
	8	躁鬱病、心因反応、その他の精神障害。				

評価方法		終講試験など				
評 価 基 準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。				
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。				
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。				単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。				
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。				
備考						
※実務経験のある教員等による授業科目となる。						

＜2024年度 救急救命士学科 救急救命士コース シラバス＞

科目名		体育Ⅲ		学年	3
		単位数	2	コマ数	30
教科目標 体力を増強し、健全な身体発達を図れる。 消防就職を見据えた体力・筋力トレーニングが出来る。 就職後の消防・救急活動に耐えうる身体作りが出来る。					
講 義 内 容	1	説明(資機材・施設・準備体操・トレーニング方法等)			
	2	ランニング			
	3	自重による筋力トレーニング(腕立て伏せ、腹筋、背筋、上半身強化、下半身強化)			
	4	マシンによる筋力トレーニング			
	5	小隊対抗リレー			
	6	ストレッチ			
	7	ダッシュ連続による体力練成			
	8	ランニング			
	9	自重による筋力トレーニング(腕立て伏せ、腹筋、背筋、上半身強化、下半身強化)			
	10	マシンによる筋力トレーニング			
	11	小隊対抗リレー			
	12	ストレッチ			
	13	ダッシュ連続による体力練成			
	14	ランニング			
	15	自重による筋力トレーニング(腕立て伏せ、腹筋、背筋、上半身強化、下半身強化)			
	16	マシンによる筋力トレーニング			
	17	小隊対抗リレー			
	18	ストレッチ			
	19	ダッシュ連続による体力練成			
	20	ランニング			
	21	自重による筋力トレーニング(腕立て伏せ、腹筋、背筋、上半身強化、下半身強化)			
	22	マシンによる筋力トレーニング			
	23	小隊対抗リレー			
	24	ストレッチ			
	25	ダッシュ連続による体力練成			
	26	ランニング			
	27	自重による筋力トレーニング(腕立て伏せ、腹筋、背筋、上半身強化、下半身強化)			
	28	マシンによる筋力トレーニング			
	29	小隊対抗リレー			
	30	ストレッチ			

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 G P A 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
		備考		

＜2024年度 救急救命士学科 救急救命士コース シラバス＞

科目名		熱傷・電撃傷			学年	3
		池田 淳也	単位数	1	コマ数	8
教科目標						
熱傷・電撃傷の病態生理と救急処置法を中心に学ぶ。						
講 義 内 容	1	皮膚組織の構造。				
	2	熱傷の種類。				
	3	重症度分類、簡易識別法。				
	4	熱傷面積の算定。				
	5	気道熱傷と一酸化炭素中毒。				
	6	救急処置、冷却、その他。				
	7	電撃、アーク放電、火焰、雷撃。				
	8	搬送時の留意点。まとめ。				

評価方法		終講試験など			
評価基準	新 G P A （ 新 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考		※実務経験のある教員等による授業科目となる。			

＜2024年度 救急救命士学科 救急救命士コース シラバス＞

科目名		微生物学			学年	3
		三瓶 泰子	単位数	1	コマ数	8
教科目標						
炎症と感染の説明、炎症の定義・原因、感染症の原因と感染経路が説明できる。 感染経路別の感染予防法、標準予防策、消毒、事故後の対応、法律指定の対応を説明できる。 予防接種、感染症の一般的症候、感染症の疫学・症候・特徴的疾患・予後について説明できる。						
講 義 内 容	1	炎症				
	2	感染症				
	3	感染予防と感染防御				
	4	救急活動での感染防御				
	5	洗浄と消毒				
	6	感染事故と事故後の対応				
	7	感染症総論				
	8	その他の感染症				

評価方法		終講試験など				
評 価 基 準	新 G P A （ 新 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。				
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。				
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。				単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。				
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。				
※実務経験のある教員等による授業科目となる。						
備考						

＜2024年度 救急救命士学科 救急救命士コース シラバス＞

科目名		病理学		学年	3
		単位数	1	コマ数	8
教科目標					
疾病の病院病理学像などの基礎的内容を理解する。					
講 義 内 容	1	成長と発達、老化、疾病の成り立ち			
	2	炎症と感染、循環障害			
	3	代謝障害			
	4	組織の退行性変化、進行性変化			
	5	腫瘍、先天異常			
	6	損傷			
	7	死			
	8	まとめ			

評価方法	終講試験など				
評 価 基 準	新 評 価 （ G P A ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

＜2024年度 救急救命士学科 救急救命士コース シラバス＞

科目名		放射線医学			学年	3
		単位数		1	コマ数	8
教科目標						
放射線、放射能および放射性元素の説明。透過力、被爆、影響、急性・晩発障害の説明ができる。 確定的・確率的影響、外部・内部被爆の防護、線量を測定する機器、救急資器材の説明ができる。 事故における区域管理、除染、緊急被爆医療体制、情報提供・情報収集の要点を説明できる						
講 義 内 容	1	放射線の概要				
	2	人体への影響				
	3	過去の放射線災害				
	4	放射線への対応				
	5	傷病者の評価と処置				
	6	緊急度・重症度の判断と医療機関選定				
	7	医療機関への情報提供				
	8	放射線管理、および、まとめ				

評価方法		終講試験など				
評 価 基 準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。				
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。				
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。				単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。				
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。				
備考						

＜2024年度 救急救命士学科 救急救命士コース シラバス＞

科目名		法医学			学年	3
		山口 智佳	単位数	1	コマ数	8
教科目標						
法医学の知識、異常死体の検案・解剖、死体の尊厳、適切な法的処置を理解する。						
講 義 内 容	1	法医学の役割				
	2	死亡診断書				
	3	死体現象のみかた				
	4	自為か他為か、死因の決定				
	5	日常生活に密着した外因死と内因死				
	6	中毒				
	7	個人識別、親子識別				
	8	医師と法律、最近注目されている医療行為				

評価方法		終講試験など				
評 価 基 準	新 （ G P A ） 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。				
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。				
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。				単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。				
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。				
※実務経験のある教員等による授業科目となる。						
備考						

＜2024年度 救急救命士学科 救急救命士コース シラバス＞

科目名		法学			学年	3
		単位数		1	コマ数	8
教科目標						
現代法を中心に、基本権の構造及び市民生活にかかわる法律的諸問題を理解する。						
講 義 内 容	1	法とは何か？				
	2	憲法における基本的人権				
	3	幸福追求権・自己決定権				
	4	職業選択の自由				
	5	消防・救急活動と法（消防に関わる主要法令、消防関係機関）				
	6	消防・救急活動と法（消防に関わる法律上の位置づけおよび根拠）				
	7	消防・救急活動と法（消防に関わる犯罪）				
	8	消防・救急活動と法（消防に関わる犯罪）				

評価方法		終講試験など				
評 価 基 準	新 G P A （ 新 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。				
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。				
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。				単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。				
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。				
備考						

＜2024年度 救急救命士学科 レスキューコース シラバス＞

科目名		シミュレーション I		学年	1
		単位数	5	コマ数	113
教科目標 救急隊員の責務、心構え、知識の向上を実技及びシミュレーションを通し、国家試験合格レベルの学力を身につける。また、MCの意味を理解する。さらに近年のプレホスピタルケアの処置拡大に伴う高度化した救急資機材の機能や特性を把握し、取扱いの習熟、保守管理を含めた手技を学ぶ。					
講 義 内 容	1～10	礼式(物品の授受、隊の編成、停止間の礼式、行進間の礼式、始業点検、車両点検、救急車取り扱い説明、展示)			
	11～18	結索法、包帯法(本結び、モヤ結び、ハの字結び、巻き結び、その他結索全般) 三角巾法(全巾、半巾、たたみ三角巾、その他)、巻軸包帯、展示			
	19～23	徒手搬送法(ファイヤーマンズキャリー法、バックストラップ法、サドルバック法、ヒューマンチェーン、組み手搬送、両手搬送、抱き上げ搬送、支持搬送、救出搬送、視力障害歩行体験)			
	24～35	担架搬送法(メインストレッチャー、サブストレッチャー、布担架、スクープストレッチャー、バックボード、曳航法、担架収容法、車内収容法、ストレッチャー上での固定)			
	36～40	保温法(毛布1・2・3枚法、アルミシート法、冷電法、温電法) 止血法(直接圧迫止血、間接圧迫止血、止血帯、止血棒、ターニケット)			
	40～50	体位管理(ストレッチャー上での仰臥位、昏睡体位、トレンデレンブルグ位、逆トレンデレンブルグ位、起座位、半座位、展示) 固定法(副子固定、アルフェンスシーネ、マジックギプス、ポリネック)			
	51～65	観察(環境観察、出血、嘔吐、顔貌、失禁、四肢変形) (意識(JCS、GCS)、呼吸(聴診器)、脈拍、血圧、体温、瞳孔(ペンライト)、展示)			
	66～75	気道管理(食道閉鎖式エアウェイ、ラリングアルマスク、気管挿管の手技、イージーキャップの使用法、EDDチェッカーの使用法、			
	76～85	静脈路確保、薬剤投与(輸液セットの設定、静脈路の知識、必要な資器材、アドレナリンの知識、薬剤投与の適応、静脈路確保の指示要請ならびに救命士報告、展示)			
	86～113	隊での活動			

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 G P A 新 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考				

＜2024年度 救急救命士学科 レスキューコース シラバス＞

科目名		医学概論			学年	1		
		単位数		1	コマ数	8		
教科目標								
医学の本質、医学の発達、医療従事者の倫理を説明できる。 自然科学とは何かを理解し、客観性、再現性、普遍性の重要性を理解する。								
講 義 内 容	1	人間と人間生活						
	2	科学的思考の基礎						
	3	生命倫理と医の倫理						
	4	生命倫理に関する原則						
	5	生命倫理の考え方と医療の実際						
	6	傷病者の権利を守る立場から						
	7	救急救命士の職業倫理						
	8	救急救命士の職業倫理						
評価方法		終講試験など						
評 価 基 準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。				}	単位認定	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。						
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。						
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。						
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。						
備考								

＜2024年度 救急救命士学科 レスキューコース シラバス＞

科目名	一般知能・一般知識 I			学年	1
		単位数	6	コマ数	45
教科目標 将来の就職試験でも必要となる一般知能・一般知識の基礎知識を会得する。					
講 義 内	1	社会科学(政治(国会・内閣・人権など))			
	2	社会科学(政治(国会・内閣・人権など))			
	3	社会科学(政治(国会・内閣・人権など))			
	4	社会科学(政治(国会・内閣・人権など))			
	5	社会科学(政治(国会・内閣・人権など))			
	6	社会科学(経済(市場経済・金融と財政など))			
	7	社会科学(経済(市場経済・金融と財政など))			
	8	社会科学(経済(市場経済・金融と財政など))			
	9	社会科学(経済(市場経済・金融と財政など))			
	10	社会科学(経済(市場経済・金融と財政など))			
	11	人文科学(日本史)			
	12	人文科学(日本史)			
	13	人文科学(日本史)			
	14	人文科学(世界史)			
	15	人文科学(世界史)			
	16	人文科学(世界史)			
	17	人文科学(地理)			
	18	人文科学(地理)			
	19	人文科学(地理)			
	20	人文科学(地理)			
	21	人文科学(文学)			
	22	人文科学(芸術)			
	23	判断推理			
	24	判断推理			
	25	判断推理			

容	26	判断推理
	27	判断推理
	28	数的推理
	29	数的推理
	30	数的推理
	31	数的推理
	32	数的推理
	33	文章理解・資料解釈(現代文)
	34	文章理解・資料解釈(現代文)
	35	文章理解・資料解釈(古文)
	36	文章理解・資料解釈(英文)
	37	文章理解・資料解釈(数表・グラフ)
	38	自然科学(物理)
	39	自然科学(物理)
	40	自然科学(化学)
	41	自然科学(化学)
	42	自然科学(化学)
	43	自然科学(生物)
	44	自然科学(地学)
	45	自然科学(地学)

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 評 価 （ G P A ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考				

＜2024年度 救急救命士学科 レスキューコース シラバス＞

科目名		英語 I		学年	1
		単位数	1	コマ数	8
教科目標					
国際社会に対応し得る能力を養い、英会話の基礎を身に付ける。 医療従事者として、人体の部位の英単語及び医療的な英会話を身に付ける。					
講 義 内 容	1	日常の英単語			
	2	日常の英単語			
	3	身体部位の英単語			
	4	身体部位の英単語			
	5	医療英会話			
	6	医療英会話			
	7	リスニング			
	8	リスニング			
評価方法		終講試験など			
評 価 基 準	新 評 価 (G P A)	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

＜2024年度 救急救命士学科 レスキューコース シラバス

科目名	解剖生理学			学年	1
		単位数	8	コマ数	60
教科目標 人体の構造と機能を中心とした基本的内容を理解する。					
	1	解剖学とは(解剖学における用語・医学の基礎としての解剖学)			
	2	生理学とは(生理学における用語・医学の基礎としての生理学)			
	3	細胞と組織			
	4	細胞と組織			
	5	細胞と組織			
	6	細胞と組織			
	7	皮膚と膜			
	8	皮膚と膜			
	9	皮膚と膜			
	10	皮膚と膜			
	11	血液			
	12	血液			
	13	血液			
	14	血液			
	15	循環器系			
	16	循環器系			
	17	循環器系			
	18	循環器系			
	19	呼吸器系			
	20	呼吸器系			

講
義
內
容

21	呼吸器系
22	呼吸器系
23	消化器系
24	消化器系
25	消化器系
26	消化器系
27	泌尿器系
28	泌尿器系
29	泌尿器系
30	泌尿器系
31	内分泌系
32	内分泌系
33	内分泌系
34	内分泌系
35	生殖器系
36	生殖器系
37	生殖器系
38	生殖器系
39	骨格系
40	骨格系
41	骨格系
42	骨格系
43	筋系
44	筋系
45	筋系
46	筋系
47	神経系
48	神経系
49	神経系
50	神経系

	51	感覚器系
	52	感覚器系
	53	感覚器系
	54	感覚器系
	55	免疫系
	56	免疫系
	57	免疫系
	58	免疫系
	59	解剖学まとめ
	60	生理学まとめ

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 （G P A ） 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考				

＜2024年度 救急救命士学科 レスキューコース シラバス＞

科目名	患者搬送			学年	1
		単位数	1	コマ数	8
教科目標 通信指令室の役割、口頭指導の概念・方法、活動記録、他機関との連携について説明できる。 病院前救護の役割、概要、救急救命士の医療関係職種としての責任を説明できる。 出動～現場の流れ、状況・初期評価、現場～救急自動車収容・医療機関収容の搬送方法を理解する					
講 義 内 容	1	消防機関における救急活動の流れ			
	2	救急救命士の役割と責任			
	3	現場活動の基本			
	4	搬送総論			
	5	搬送方法			
	6	器具を用いた搬送			
	7	搬送手順			
	8	ヘリコプターへの傷病者の搬入と搬出、事故車両からの救出方法			
	9				
	10				

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 G P A （ 新 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考				

＜2024年度 救急救命士学科 レスキューコース シラバス＞

科目名		看護学概論			学年	1	
		三瓶 泰子		単位数	1	コマ数	8
教科目標							
医療における看護の位置づけと役割、在宅療法の概念、種類、対応について説明できる。 傷病者とのコミュニケーションの技法、医療機関とのコミュニケーションの要点を説明できる。 事故の発生におけるヒューマンエラー、インシデント・アクシデントのハインリッヒの法則を説明できる							
講 義 内 容	1	接遇とコミュニケーション					
	2	対象に応じたコミュニケーション、救急活動でのコミュニケーション					
	3	安全管理と事故対応					
	4	感染予防					
	5	在宅療法とは、在宅療法への対応（HOT、在宅人工呼吸、気管切開）					
	6	在宅療法への対応（植え込み型ペースメーカー、経管栄養、IHV）					
	7	在宅療法への対応（血液透析、腹膜透析、尿道カテーテル、人工肛門）					
	8	講義の復習、国家試験の過去問解説、終講試験について					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法		終講試験など					
評 価 基 準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。					
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。					
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。					
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。					
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。					
備考		※実務経験のある教員等による授業科目となる。					

＜2024年度 救急救命士学科 レスキューコース シラバス＞

科目名	救急災害医療			学年	1
	青野 允	単位数	1	コマ数	8
教科目標 わが国における救急自動車による救急搬送の現状、概要の理解。 救急医療機関の役割と要件の理解。 災害の定義、分類の理解。					
講 義 内 容	1	救急医療体制(病院前医療)			
	2	救急医療体制(救急医療システム、救急医療情報)			
	3	災害医療体制(トリアージ)			
	4	災害医療体制(大規模災害、特殊災害)			
	5	病院前医療体制(救命の連鎖、市民による一次救命処置)			
	6	病院前医療体制(市民教育、メディカルコントロール)			
	7	救急救命士に関する法令			
	8	救急救命士の養成と生涯教育			
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				

評価方法		終講試験など		
評価基準	新GPA 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考	※実務経験のある教員等による授業科目となる。			

＜2024年度 救急救命士学科 レスキューコース シラバス＞

科目名		呼吸器官			学年	1	
		単位数		2	コマ数	15	
教科目標							
呼吸系の役割、構造、機能、仕組み、ガス交換、調節を理解する。 呼吸不全の概念、基本的病態の説明、呼吸不全症例・緊急度が高い所見を列挙できる。 呼吸困難の程度、分類、随伴症候、観察の要点の説明ができる。							
講 義 内 容	1	呼吸器系の構成と役割					
	2	呼吸、気道					
	3	胸郭、肺					
	4	肺胞でのガス交換 体内での酸素の働き 呼吸の調節					
	5	呼吸不全総論 呼吸運動の障害					
	6	気道の障害 肺胞の障害 肺間質の障害					
	7	呼吸困難定義・概念					
	8	分類 呼吸器による分類 程度による分類					
	9	原因疾患 随伴症候					
	10	緊急度・重症度の判断					
	11	喀血定義・分類 喀血による影響					
	12	判別を要する病態 緊急度・重症度の判断					
	13	現場活動 医療機関選定					
	14	呼吸系疾患総論 呼吸不全 上気道の疾患 下気道と肺胞の疾患					
	15	感染症 胸膜疾患 その他の呼吸系疾患					
評価方法		終講試験など					
評 価 基 準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。				}	単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。					
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。					
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。					
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。					
備考							

＜2024年度 救急救命士学科 レスキューコース シラバス＞

科目名	公衆衛生学			学年	1
		単位数	1	コマ数	8
教科目標 公衆衛生学の基礎知識を得る。 現象を捉え評価するデータを読む力を養う。 救急救命士国家試験に求められる公衆衛生学に関する課題への理解力を養う。					
講 義 内 容	1	公衆衛生学の概念			
	2	公衆衛生学の概念進歩			
	3	保険指標			
	4	公衆衛生学に関する行政組織			
	5	人口動態			
	6	疾病構造の変化			
	7	医療供給体制と環境保健			
	8	学校保健、母子保健、地域保健、高齢者保健、精神保健福祉及び講義のまとめ			
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考				

＜2024年度 救急救命士学科 レスキューコース シラバス＞

科目名	処置論Ⅰ			学年	1
	池田淳也 吉田英明 中田敏宏 境純平	単位数	6	コマ数	45
教科目標 救急現場での使用資機材の基本操作・使用方法を理解する。 資機材の使用方法から現場での対応能力を向上させることができる。 誤った使用方法による傷病者への侵襲を理解し現場での事故防止策を各自で練ることができる。					
講 義 内	1	パルスオキシメータ			
	2	カプノメータ			
	3	カプノメータ			
	4	聴診器			
	5	血圧計			
	6	心電図			
	7	心電図			
	8	体温計			
	9	気道確保			
	10	気道確保			
	11	気道異物除去			
	12	気道異物除去			
	13	口腔内の吸引			
	14	声門上気道デバイスを用いた気道確保			
	15	声門上気道デバイスを用いた気道確保			
	16	気管挿管			
	17	気管挿管			
	18	気管挿管			
	19	気管吸引			
	20	酸素投与			
	21	酸素投与			
	22	人工呼吸			
	23	人工呼吸			
	24	胸骨圧迫			
	25	胸骨圧迫			

容	26	自動式心マッサージ機の使用
	27	除細動
	28	除細動
	29	静脈路確保と輸液
	30	静脈路確保と輸液
	31	アドレナリン投与
	32	アドレナリン投与
	33	自己注射用アドレナリンの投与
	34	体位管理
	35	体位管理
	36	体温管理
	37	止血
	38	止血
	39	創傷処置
	40	創傷処置
	41	固定
	42	固定
	43	固定
	44	産婦人科領域の処置
	45	産婦人科領域の処置

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 （G P A ） 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
		※実務経験のある教員等による授業科目となる。		
備考				

＜2024年度 救急救命士学科 レスキューコース シラバス＞

科目名	情報科学 I			学年	1
		単位数	2	コマ数	30
教科目標 社会に出て必要なコンピューターの基礎知識(Word・Excel・PowerPoint等)や文章作成及びプレゼンテーション作成をコンピューターでできるようにする					
講 義	1	導入(起動方法・ウォーミングアップ)キートレーニング・入力練習			
	2	キートレーニング・入力練習・ビジネス文書の作成			
	3	ビジネス文書の作成・編集			
	4	単語登録・Word書式設定			
	5	Word段落書式・ヘッダーフッター			
	6	Word文字種の変換・タブ機能			
	7	Word特殊記号の入力・タブ機能・表作成の練習			
	8	Word表作成機能-応用			
	9	Word図形描画			
	10	Word図形描画の応用・Wordまとめ			
	11	PowerPoint概要・基本操作確認・プレゼンテーションの作成			
	12	PowerPoint基本操作確認・自己PRの作成			
	13	自己PRの作成・発表			
	14	Word復習			
	15	入力テスト・前期終了前課題			

内 容	16	PowerPointの復習と活用・画面切り替え・アニメーション
	17	PowerPoint-マスター操作・内容最終確認-作成
	18	PowerPoint作成上の注意・発表方法の注意点確認
	19	PowerPoint発表準備・グループ発表・全体発表の役割分担
	20	PowerPoint発表
	21	Excel-導入
	22	Excel基本操作-確認・書式設定
	23	Excel書式設定・絶対参照
	24	Excel絶対参照復習・RANK関数・ページ設定
	25	Excel並べ替え・条件付き書式・ページ設定・IF関数
	26	Excel棒グラフの作成・IF関数・条件付き書式の応用
	27	Excel円グラフの作成・IF関数の応用
	28	Excelフィルタ・テーブル・復習
	29	ExcelIF関数-活用・ページ設定-活用・COUNTIF関数・入力規則
	30	Excel復習課題

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 評 価 （ G P A ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考				

＜2024年度 救急救命士学科 レスキューコース シラバス＞

科目名		心臓血管		学年	1
		単位数	2	コマ数	15
教科目標					
心臓の構造と役割、動脈と静脈、リンパ管の解剖と役割、自律神経や内分泌系を説明できる。 心不全の定義、原因、心機能、症候、慢性・急性心不全の処置・搬送・医療機関選定を説明できる。 心不全の疫学、病因、病態、症候、合併症、現場活動の説明と心電図の原理、意義、判読ができる。					
講 義 内 容	1	循環系の構成と役割 心臓			
	2	脈管 循環の制御			
	3	心不全総論 病態生理			
	4	症候 種類			
	5	慢性心不全の急性増悪			
	6	現場活動			
	7	胸痛の定義・概念 発生機序 原因疾患 緊急度・重症度の判断 現場活動			
	8	動悸の定義・概念 発生機序 原因疾患 随伴症候 緊急度・重症度の判断 現場活動			
	9	循環系疾患総論			
	10	動脈硬化 うっ血性心不全			
	11	虚血性心疾患 心筋疾患			
	12	心膜疾患 不整脈 その他の心疾患			
	13	血管疾患 高血圧			
	14	心電図の解読 頻脈性不整脈の心電図			
	15	徐脈性不整脈 心筋の虚血性変化 その他の心電図異常			

評価方法		終講試験など			
評 価 基 準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

＜2024年度 救急救命士学科 レスキューコース シラバス＞

科目名		神経器官		学年	1
		単位数	1	コマ数	8
教科目標					
神経の解剖・生理と主な疾患の症状・救急処置などを中心に学ぶ。					
講 義 内 容	1	神経・感覚器			
	2	運動障害が起こる理由 種類と病態			
	3	感覚障害が起こる理由 種類と病態			
	4	応急処置と搬送時の注意点			
	5	神経の構造と機能			
	6	観察と判断			
	7	おもな疾患			
	8	まとめ			

評価方法	終講試験など				
評 価 基 準	(G P A 新 評 価)	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

<2024年度 救急救命士学科 レスキューコース シラバス>

科目名		生化学		学年	1
		単位数	1	コマ数	8
教科目標					
生体を構成する物質の構造と機能、生体内での代謝や疾病時の変化などについての基本的事項を学ぶ。					
講義内容	1	細胞の構造と機能			
	2	体液（組成、細胞外液・内液、電解質）			
	3	体液（酸塩基平衡、浸透圧、電解質と体液調節の仕組み）			
	4	栄養と代謝（栄養素、エネルギーを得る仕組み）			
	5	外呼吸（大気、気道と肺胞、血液の酸素化と二酸化炭素の放出）			
	6	循環（酸素運搬と臓器血流） 組織酸素代謝 内部環境（体液・電解質の役割とその調節）			
	7	内部環境（酸塩基平衡・浸透圧・体温の役割とその調節）			
	8	疾患の原因（主因と誘因、内因と外因、遺伝性と発症性、先天性と後天性）			
	9				
	10				
評価方法		終講試験など			
評価基準	新GPA評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

＜2024年度 救急救命士学科 レスキューコース シラバス＞

科目名		生命医学倫理			学年	1
		単位数		1	コマ数	8
教科目標						
市民社会の成立、生命の尊厳、社会規範、宗教哲学等生命倫理をめぐる基本問題を理解する。						
講 義 内 容	1	インフォームドコンセント				
	2	中絶と出生前診断・生殖技術				
	3	脳死と臓器移植				
	4	安楽死と治療停止				
	5	遺伝子解読・医療問題				
	6	患者－医療関係者				
	7	看護と介護				
	8	まとめ				

評価方法		終講試験など				
評 価 基 準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。				
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。				
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。				単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。				
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。				
備考						

＜2024年度 救急救命士学科 レスキューコース シラバス＞

科目名	体育 I			学年	1
		単位数	2	コマ数	30
教科目標 体力を增強し、健全な身体発達を図れる。 消防就職を見据えた体力・筋力トレーニングが出来る。 就職後の消防・救急活動に耐えうる身体作りが出来る。					
講 義	1	オリエンテーション			
	2	ランニング			
	3	自重によるトレーニング			
	4	マシンによるトレーニング			
	5	小隊対抗リレー			
	6	ストレッチ			
	7	シャトルラン			
	8	ランニング			
	9	自重によるトレーニング			
	10	マシンによるトレーニング			
	11	小隊対抗リレー			
	12	ストレッチ			
	13	シャトルラン			
	14	ランニング			
	15	自重によるトレーニング			

内 容	16	マシンによるトレーニング
	17	小隊対抗リレー
	18	ストレッチ
	19	シャトルラン
	20	ランニング
	21	自重によるトレーニング
	22	マシンによるトレーニング
	23	小隊対抗リレー
	24	ストレッチ
	25	シャトルラン
	26	ランニング
	27	自重によるトレーニング
	28	マシンによるトレーニング
	29	小隊対抗リレー
	30	ストレッチ

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 評 価 （ G P A ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考				

＜2024年度 救急救命士学科 レスキューコース シラバス＞

科目名	臨床検査			学年	1
		単位数	1	コマ数	8
教科目標 臨床検査の目的、意義、種類、検査方法について理解を深める。					
講 義 内 容	1	臨床検査概論			
	2	一般検査、血液検査			
	3	凝固検査、輸血・血液型検査			
	4	免疫検査、生化学検査			
	5	生化学検査、微生物検査、緊急検査			
	6	生理機能検査			
	7	生化学検査、病理・細胞診検査、画像検査			
	8	画像検査、まとめ			
	9				
	10				

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 G P A （ 新 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考				

<2024年度 救急救命士学科 レスキューコース シラバス>

科目名		スポーツ概論Ⅰ		学年	2
		単位数	1	コマ数	8
教科目標					
スポーツを理論的に学び効果的なトレーニング方法を身に付けることができる。					
講 義 内 容	1	オリエンテーション			
	2	トレーニング手法			
	3	ストレッチング手法			
	4	胸部トレーニング			
	5	背面トレーニング			
	6	下半身トレーニング			
	7	コンパウンドトレーニング			
	8	体力測定			
評価方法		終講試験など			
評 価 基 準	新 G P A （ 新 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		単位認定	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

単位認定

<2024年度 救急救命士学科 レスキューコース シラバス>

科目名		スポーツ概論Ⅱ		学年	2
		単位数	1	コマ数	8
教科目標					
スポーツを理論的に学び効果的なトレーニング方法を身に着けることができる。					
講 義 内 容	1	オリエンテーション			
	2	トレーニング手法			
	3	コンディション手法			
	4	胸部トレーニング			
	5	背面トレーニング			
	6	下半身トレーニング			
	7	コンパウンドトレーニング			
	8	体力測定			
評価方法		終講試験など			
評 価 基 準	新 G P A （ 新 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		単位認定	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

＜2024年度 救急救命士学科 レスキューコース シラバス＞

科目名		トレーニングⅠ		学年	2
		単位数	2	コマ数	30
教科目標					
体力を増強し、健全な身体発達を図れる。 消防就職を見据えた体力・筋力トレーニングが出来る。 就職後の消防・救急活動に耐えうる身体作りが出来る。					
講 義 内 容	1	オリエンテーション			
	2	ランニング			
	3	自重によるトレーニング			
	4	マシンによるトレーニング			
	5	小隊対抗リレー			
	6	ストレッチ			
	7	シャトルラン			
	8	ランニング			
	9	自重によるトレーニング			
	10	マシンによるトレーニング			
	11	小隊対抗リレー			
	12	ストレッチ			
	13	シャトルラン			
	14	ランニング			
	15	自重によるトレーニング			
	16	マシンによるトレーニング			
	17	小隊対抗リレー			
	18	ストレッチ			
	19	シャトルラン			
	20	ランニング			
	21	自重によるトレーニング			
	22	マシンによるトレーニング			
	23	小隊対抗リレー			
	24	ストレッチ			
	25	シャトルラン			
	26	ランニング			
	27	自重によるトレーニング			
	28	マシンによるトレーニング			
	29	小隊対抗リレー			
	30	ストレッチ			
評価方法		終講試験など			
評価基準	新 G P A （ 新 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

＜2024年度 救急救命士学科 レスキューコース シラバス＞

科目名		トレーニングⅡ		学年	2
		単位数	2	コマ数	30
教科目標					
体力を増強し、健全な身体発達を図れる。 消防就職を見据えた体力・筋力トレーニングが出来る。 就職後の消防・救急活動に耐えうる身体作りが出来る。					
講 義 内 容	1	オリエンテーション			
	2	ランニング			
	3	自重によるトレーニング			
	4	マシンによるトレーニング			
	5	小隊対抗リレー			
	6	ストレッチ			
	7	シャトルラン			
	8	ランニング			
	9	自重によるトレーニング			
	10	マシンによるトレーニング			
	11	小隊対抗リレー			
	12	ストレッチ			
	13	シャトルラン			
	14	ランニング			
	15	自重によるトレーニング			
	16	マシンによるトレーニング			
	17	小隊対抗リレー			
	18	ストレッチ			
	19	シャトルラン			
	20	ランニング			
	21	自重によるトレーニング			
	22	マシンによるトレーニング			
	23	小隊対抗リレー			
	24	ストレッチ			
	25	シャトルラン			
	26	ランニング			
	27	自重によるトレーニング			
	28	マシンによるトレーニング			
	29	小隊対抗リレー			
	30	ストレッチ			
評価方法		終講試験など			
評価基準	新 G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

＜2024年度 救急救命士学科 レスキューコース シラバス＞

科目名	ドローン演習Ⅰ			学年	2
		単位数	1	コマ数	15
教科目標 ・機体の構造を理解する。 ・危険予知ができる。 ・操縦の基本を理解する。					
講 義 内 容	1	安全管理(操縦者やその周囲、機体自体)			
	2	機体のシステム知識(部品名称や取付注意点等)			
	3	航空力学の実践			
	4	モーター始動の注意点			
	5	プロポの操縦における注意点			
	6	モーター始動およびプロポ操縦の反復			
	7	離陸前点検			
	8	離陸前点検、プロポ点検、モータ始動の一連反復練習			
	9	離陸前点検、プロポ点検、モータ始動の一連反復練習			
	10	上昇・下降の操縦(センサーの作動含む)			
	11	着陸方法・着陸時の注意点			
	12	離陸後のラダー操縦			
	13	離陸後のエルロン操縦			
	14	着陸後点検			
	15	操縦記録の方法			

評価方法		終講試験など	
評価基準	新 G P A 新 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	
備考			

＜2024年度 救急救命士学科 レスキューコース シラバス＞

科目名		ドローン演習Ⅱ		学年	2
		単位数	2	コマ数	30
教科目標 ・操縦の反復訓練でスキルを向上させる。 ・基本から実践へのステップアップを図る。					
講 義 内 容	1	安全管理（操縦者やその周囲、機体自体）			
	2	プロポ操縦のスムーズ化			
	3	機体の前進・後進			
	4	3動作（前進もしくは後進・ラダー・エルロン）の反復訓練1			
	5	3動作（前進もしくは後進・ラダー・エルロン）の反復訓練2			
	6	3動作（前進もしくは後進・ラダー・エルロン）の反復訓練3			
	7	3動作（前進もしくは後進・ラダー・エルロン）の反復訓練4			
	8	3動作（前進もしくは後進・ラダー・エルロン）の反復訓練5			
	9	スクエア飛行訓練1			
	10	スクエア飛行訓練2			
	11	スクエア飛行訓練3			
	12	スクエア飛行訓練4			
	13	スクエア飛行訓練5			
	14	8の字飛行訓練1			
	15	8の字飛行訓練2			
	16	8の字飛行訓練3			
	17	8の字飛行訓練4			
	18	8の字飛行訓練5			
	19	異常事態における緊急着陸訓練1			
	20	異常事態における緊急着陸訓練2			
	21	異常事態における緊急着陸訓練3			
	22	異常事態における緊急着陸訓練4			
	23	異常事態における緊急着陸訓練5			
	24	機体カメラの取扱要領			
	25	機体カメラの操作訓練			
	26	機体カメラを用いた搜索訓練1			
	27	機体カメラを用いた搜索訓練2			
	28	機体カメラを用いた搜索訓練3			
	29	機体カメラを用いた搜索訓練4			
	30	操縦記録整理			

評価方法		終講試験など	
評価基準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	
備考			

＜2024年度 救急救命士学科 レスキューコース シラバス＞

科目名	ドローン概論			学年	2
		単位数	2	コマ数	15
教科目標 ・無人航空機の種類について理解する。 ・ドローンの活用現状について理解する。 ・ドローンにおける有効的な災害対応を理解する。 ・機体の構造を理解する。					
講 義 内 容	1	無人航空機の種類（ドローン等のマルチコプターやヘリコプター）			
	2	ドローン活用の取り組み（国の推進例等）			
	3	関連法規 1（航空法）			
	4	関連法規2（小型無人機等飛行禁止法）			
	5	関連法規3（電波法）			
	6	事故事例の検討			
	7	災害現場での活用事例			
	8	各種申請や報告要領1			
	9	各種申請や報告要領2			
	10	関係省庁との連携知識			
	11	無人航空機の事故時対応			
	12	国家資格について（一等無人航空機操縦士・二等無人航空機操縦士 資格）			
	13	機体の構造理解1			
	14	機体の構造理解2			
	15	まとめ			

評価方法		終講試験など	
評価基準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	} 単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	
備考			

＜2024年度 救急救命士学科 レスキューコースシラバス＞

科目名		ビジネスマナーⅠ		学年	2
		単位数	1	コマ数	8
授業概要、到達目標					
社会人としてのマナーを身に着け行動することができる。					
講 義 内 容	1	社会人の心構えと服務規律			
	2	ハラスメント			
	3	身だしなみと基本動作			
	4	言葉遣い			
	5	電話対応			
	6	来客対応			
	7	ビジネスメール1			
	8	ビジネスメール2			
評価方法		全コマ終了後にテストを実施			
評 価 基 準	新 G P A （ 新 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

＜2024年度 救急救命士学科 レスキューコースシラバス＞

科目名	安全管理Ⅰ			学年	2
		単位数	1	コマ数	8
授業概要、到達目標					
安全管理の重要性を理解し危険を予測することができる。					
講 義 内 容	1	安全管理の意義			
	2	ヒューマンエラーと不安全行動			
	3	心理学の理論を用いた「慣れ」の除去			
	4	安全管理対策			
	5	安全教育			
	6	日常業務における受傷危険と事故防止			
	7	日常業務における危険予知トレーニング1			
	8	日常業務における危険予知トレーニング2			
評価方法		全コマ終了後にテストを実施			
評 価 基 準	新 G P A （ 新 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

<2024年度 救急救命士学科 レスキューコースシラバス>

科目名		安全管理Ⅱ			学年	2
		単位数		1	コマ数	15
授業概要、到達目標						
安全管理の重要性を理解し、各種災害の危険を予知し、行動を考えることができる。						
講 義 内 容	1	安全管理の意義				
	2	ヒューマンエラーと安全管理対策				
	3	建物火災の危険予知トレーニング				
	4	ガス漏洩災害の危険予知トレーニング				
	5	交通事故の危険予知トレーニング				
	6	救急活動の危険予知トレーニング				
	7	水難救助の危険予知トレーニング				
	8	体力管理のためのトレーニング理論				
	9	救急活動の危険予知トレーニング2				
	10	水難救助の危険予知トレーニング				
	11	体力管理のためのトレーニング理論1				
	12	体力管理のためのトレーニング理論2				
	13	熱中症予防1				
	14	熱中症予防2				
	15	惨事ストレス対策				
評価方法		全コマ終了後にテストを実施				
評価基準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。				
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。				
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。				
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。				
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。				
備考						

<2024年度 救急救命士学科 レスキューコース シラバス>

科目名	火災Ⅰ-A			学年	2
		単位数	1	コマ数	8
教科目標					
火災現象の仕組みを理解できるようになる					
講 義 内 容	1	火災の定義			
	2	火災の現象			
	3	火災の分類			
	4	火災防御の意義			
	5	消火の原則			
	6	部隊活動			
	7	火災防御の行動			
	8	安全管理			

評価方法		
評価基準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。
備考		

単位認

<2024年度 救急救命士学科 レスキューコース シラバス>

科目名	火災Ⅰ-B			学年	2
		単位数	1	コマ数	8
教科目標					
火災現象の仕組みと消火方法を理解できるようになる					
講 義 内 容	1	建物火災防御			
	2	林野火災防御			
	3	車両火災防御			
	4	船舶火災防御			
	5	航空機火災防御			
	6	ガス施設火災防御			
	7	危険物火災防御			
	8	電気火災防御			

評価方法			
評価基準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	単位認
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	
		備考	

単位認

<2024年度 救急救命士学科 レスキューコース シラバス>

科目名		機械Ⅰ－Ⅰ		学年	2
		単位数	1	コマ数	8
教科目標					
建築用機械の仕組みや構造を理解できるようになる					
講 義 内 容	1	建築用機械の世界と歴史			
	2	建築用機械の役割と働き			
	3	ブルドーザーの仕組み			
	4	油圧ショベルの仕組み			
	5	ホイールローダーの仕組み			
	6	移動式クレーンの仕組み			
	7	ダンプトラックの仕組み			
	8	コンクリートポンプ車の仕組み			
評価方法					
評 価 基 準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

＜2024年度 救急救命士学科 レスキューコース シラバス＞

科目名	機械Ⅱ－Ⅰ			学年	2
		単位数	1	コマ数	8
教科目標 工業用機械の仕組みや構造を理解できるようになる					
講 義 内 容	1	工業用機械の世界と歴史			
	2	機械のなりたち			
	3	機械の設計			
	4	機械に働く力と仕事			
	5	材料に加わる荷重			
	6	引張・圧縮荷重を受ける材料の強さ			
	7	せん断荷重を受ける材料の強さ			
	8	熱応力			

評価方法					
評価基準	新 G P A （ 新 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		}	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			単位認
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

＜2024年度 救急救命士学科 レスキューコース シラバス＞

科目名		機械Ⅲ－Ⅰ		学年	2
		単位数	1	コマ数	8
教科目標					
農業用機械の仕組みや構造を理解できるようになる					
講 義 内 容	1	農業用機械の世界と歴史			
	2	農業用機械の役割			
	3	原動機（電動機・内燃機関）			
	4	トラクター			
	5	作業機（耕運機、整地用機械）			
	6	作業機（育成・管理用機械）			
	7	作業機（稲作用収穫・調製用機械）			
	8	作業機（飼料作用収穫・調製用機械）			

評価方法		
評価基準	新 G P A （ 新 評 価 ）	A(90点以上)：教科目標を高い水準で達成している。
		B(80～89点)：教科目標達成において優れている。
		C(70～79点)：教科目標において一定の水準に達している。
		D(60～69点)：教科目標において最低限の水準に達している。
		F(59点以下または不合格)：教科目標を達成することができなかった。
備考		

＜2024年度 救急救命士学科 レスキューコース シラバス＞

科目名	救急外傷			学年	2
		単位数	1	コマ数	15
教科目標 外傷知識や救命技術について理解を深める。					
講 義 内 容	1	救急外傷概論			
	2	PTDの概念			
	3	JPTECガイドラインの理解			
	4	重症外傷における緊急度・重症度			
	5	処置概論			
	6	頭部保持の必要性			
	7	状況評価の概念（応援隊としての活動、安全管理体制）			
	8	初期評価の知識と概念（生理学的知識）			
	9	全身観察の知識と概念（解剖学的知識）			
	10	全身観察の知識と概念（視診・聴診・触診の方法）			
	11	ログロール・ログリフト・フラットリフトの概念			
	12	SMRの概念			
	13	固定方法各種の知識・技術の理解			
	14	Z字移動から全身固定の実施			
	15	救急隊搬送補助の要領、まとめ			

評価方法		終講試験など	
評価基準	新 G P A (評 価)	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	
備考			

＜2024年度 救急救命士学科 レスキューコース シラバス＞

科目名	救助実技 I			学年	2
		単位数	2	コマ数	45
教科目標 救助技術の基本であるロープ・梯子・滑車等の資機材の特性を理解し救助活動ができる					
講 義 内 容	1	救助資機材の説明			
	2	安全管理			
	3	安全管理			
	4	基本的な救助資機材の取扱い			
	5～9	ロープ取扱いの基礎知識			
	10～12	ロープの種類・構成・強度			
	13～27	ロープ結索の各種要領			
	28～32	付属機器の取扱い			
	33～42	ロープの降下			
	43～45	ロープ渡過			

評価方法		終講試験など	
評価基準	新 G P A （ 新 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	
備考			

単位認定

＜2024年度 救急救命士学科 レスキューコース シラバス＞

科目名		トレーニングⅢ		学年	3
		単位数	2	コマ数	30
教科目標					
体力を増強し、健全な身体発達を図れる。 消防就職を見据えた体力・筋力トレーニングが出来る。 就職後の消防・救急活動に耐えうる身体作りが出来る。					
講 義 内 容	1	オリエンテーション			
	2	ランニング			
	3	自重によるトレーニング			
	4	マシンによるトレーニング			
	5	小隊対抗リレー			
	6	ストレッチ			
	7	シャトルラン			
	8	ランニング			
	9	自重によるトレーニング			
	10	マシンによるトレーニング			
	11	小隊対抗リレー			
	12	ストレッチ			
	13	シャトルラン			
	14	ランニング			
	15	自重によるトレーニング			
	16	マシンによるトレーニング			
	17	小隊対抗リレー			
	18	ストレッチ			
	19	シャトルラン			
	20	ランニング			
	21	自重によるトレーニング			
	22	マシンによるトレーニング			
	23	小隊対抗リレー			
	24	ストレッチ			
	25	シャトルラン			
	26	ランニング			
	27	自重によるトレーニング			
	28	マシンによるトレーニング			
	29	小隊対抗リレー			
	30	ストレッチ			
評価方法		終講試験など			
評価基準	新GPA 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

＜2024年度 救急救命士学科 レスキューコース シラバス＞

科目名		トレーニングⅣ		学年	3
		単位数	2	コマ数	30
教科目標					
体力を増強し、健全な身体発達を図れる。 消防就職を見据えた体力・筋力トレーニングが出来る。 就職後の消防・救急活動に耐えうる身体作りが出来る。					
講 義 内 容	1	オリエンテーション			
	2	ランニング			
	3	自重によるトレーニング			
	4	マシンによるトレーニング			
	5	小隊対抗リレー			
	6	ストレッチ			
	7	シャトルラン			
	8	ランニング			
	9	自重によるトレーニング			
	10	マシンによるトレーニング			
	11	小隊対抗リレー			
	12	ストレッチ			
	13	シャトルラン			
	14	ランニング			
	15	自重によるトレーニング			
	16	マシンによるトレーニング			
	17	小隊対抗リレー			
	18	ストレッチ			
	19	シャトルラン			
	20	ランニング			
	21	自重によるトレーニング			
	22	マシンによるトレーニング			
	23	小隊対抗リレー			
	24	ストレッチ			
	25	シャトルラン			
	26	ランニング			
	27	自重によるトレーニング			
	28	マシンによるトレーニング			
	29	小隊対抗リレー			
	30	ストレッチ			
評価方法		終講試験など			
評価基準	新 G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

＜2024年度 救急救命士学科 レスキューコース シラバス＞

科目名	ドローン演習Ⅲ			学年	3
		単位数	1	コマ数	15
教科目標 ・機体の構造を理解する。 ・危険予知ができる。 ・操縦の基本を理解する。					
講 義 内 容	1	安全管理(操縦者やその周囲、機体自体)			
	2	機体のシステム知識(部品名称や取付注意点等)			
	3	航空力学の実践			
	4	モーター始動の注意点			
	5	プロポの操縦における注意点			
	6	モーター始動およびプロポ操縦の反復			
	7	離陸前点検			
	8	離陸前点検、プロポ点検、モータ始動の一連反復練習			
	9	離陸前点検、プロポ点検、モータ始動の一連反復練習			
	10	上昇・下降の操縦(センサーの作動含む)			
	11	着陸方法・着陸時の注意点			
	12	離陸後のラダー操縦			
	13	離陸後のエルロン操縦			
	14	着陸後点検			
	15	操縦記録の方法			

評価方法		終講試験など	
評価基準	新 G P A 新 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	
備考			

＜2024年度 救急救命士学科 レスキューコース シラバス＞

科目名		ドローン演習Ⅳ		学年	3
		単位数	2	コマ数	30
教科目標 ・操縦の反復訓練でスキルを向上させる。 ・基本から実践へのステップアップを図る。					
講 義 内 容	1	安全管理(操縦者やその周囲、機体自体)			
	2	プロポ操縦のスムーズ化			
	3	機体の前進・後進			
	4	3動作(前進もしくは後進・ラダー・エルロン)の反復訓練1			
	5	3動作(前進もしくは後進・ラダー・エルロン)の反復訓練2			
	6	3動作(前進もしくは後進・ラダー・エルロン)の反復訓練3			
	7	3動作(前進もしくは後進・ラダー・エルロン)の反復訓練4			
	8	3動作(前進もしくは後進・ラダー・エルロン)の反復訓練5			
	9	スクエア飛行訓練1			
	10	スクエア飛行訓練2			
	11	スクエア飛行訓練3			
	12	スクエア飛行訓練4			
	13	スクエア飛行訓練5			
	14	8の字飛行訓練1			
	15	8の字飛行訓練2			
	16	8の字飛行訓練3			
	17	8の字飛行訓練4			
	18	8の字飛行訓練5			
	19	異常事態における緊急着陸訓練1			
	20	異常事態における緊急着陸訓練2			
	21	異常事態における緊急着陸訓練3			
	22	異常事態における緊急着陸訓練4			
	23	異常事態における緊急着陸訓練5			
	24	機体カメラの取扱要領			
	25	機体カメラの操作訓練			
	26	機体カメラを用いた搜索訓練1			
	27	機体カメラを用いた搜索訓練2			
	28	機体カメラを用いた搜索訓練3			
	29	機体カメラを用いた搜索訓練4			
	30	操縦記録整理			

評価方法		終講試験など	
評価基準	新 G P A （ 新 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	
備考			

単位認定

＜2024年度 救急救命士学科 レスキューコースシラバス＞

科目名		ビジネスマナーⅡ			学年	3
		単位数		1	コマ数	8
授業概要、到達目標						
就職活動での面接力を身に付ける。						
講 義 内 容	1	面接の基本動作				
	2	面接内容の作成1				
	3	面接内容の作成2				
	4	個人面接1				
	5	個人面接2				
	6	個人面接3				
	7	集団面接1				
	8	集団面接2				
評価方法		全コマ終了後にテストを実施				
評 価 基 準	新 G P A （ 新 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。				
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。				
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。				
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。				
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。				
備考						

＜2024年度 救急救命士学科 レスキューコースシラバス＞

科目名		安全管理Ⅲ			学年	3	
				単位数	2	コマ数	15
授業概要、到達目標							
安全管理の重要性を理解し実践することができる。							
講 義 内 容	1	日常業務における危険予知トレーニング					
	2	車両の日常点検					
	3	車両誘導における安全管理1					
	4	車両誘導における安全管理2					
	5	救急活動における安全管理1					
	6	救急活動における安全管理2					
	7	ロープレスキューにおける安全管理1					
	8	ロープレスキューにおける安全管理2					
	9	ホース取扱いにおける安全管理					
	10	内部進入における安全管理1					
	11	内部進入における安全管理2					
	12	担架搬送時における安全管理1					
	13	担架搬送時における安全管理2					
	14	三連梯子取扱いにおける安全管理1					
	15	三連梯子取扱いにおける安全管理2					
評価方法		全コマ終了後にテストを実施					
評 価 基 準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。					
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。					
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。					
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。					
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。					
備考							

<2024年度 救急救命士学科 レスキューコース シラバス>

科目名	火災Ⅱ-A			学年	3
		単位数	1	コマ数	8
教科目標					
火災現象の仕組みを理解できるようになる					
講 義 内 容	1	火災の定義			
	2	火災の現象			
	3	火災の分類			
	4	火災防御の意義			
	5	消火の原則			
	6	部隊活動			
	7	火災防御の行動			
	8	安全管理			

評価方法		
評価基準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。
備考		

単位認

<2024年度 救急救命士学科 レスキューコース シラバス>

科目名	火災Ⅱ-B			学年	3
		単位数	1	コマ数	8
教科目標					
火災現象の仕組みと消火方法を理解できるようになる					
講 義 内 容	1	建物火災防御			
	2	林野火災防御			
	3	車両火災防御			
	4	船舶火災防御			
	5	航空機火災防御			
	6	ガス施設火災防御			
	7	危険物火災防御			
	8	電気火災防御			

評価方法		
評価基準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。
備考		

単位認

＜2024年度 救急救命士学科 レスキューコース シラバス＞

科目名	機械Ⅰ－Ⅱ			学年	3
		単位数	1	コマ数	8
教科目標 建築用機械の仕組みや構造を理解できるようになる					
講 義 内 容	1	パスカルの原理を応用した油圧			
	2	滑車の仕組み			
	3	テコの原理の応用			
	4	油圧シリンダーの組合せ			
	5	無限軌道クローラの構造			
	6	高所作業車の構造			
	7	フォークリフトの構造			
	8	現場で活躍する建築機械			

評価方法		
評価基準	新 G P A （ 新 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。
備考		

単位認

<2024年度 救急救命士学科 レスキューコース シラバス>

科目名	機械Ⅱ－Ⅱ			学年	3
		単位数	1	コマ数	8
教科目標					
工業用機械の仕組みや構造を理解できるようになる					
講 義 内 容	1	材料の破壊と強さ			
	2	ねじの種類と用途			
	3	ねじに働く力			
	4	ボルトとナット			
	5	軸とキー			
	6	軸継手			
	7	軸受と密封装置			
	8	潤滑			

評価方法		
評価基準	新 G P A (評 価)	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。
備考		

単位認

<2024年度 救急救命士学科 レスキューコース シラバス>

科目名		機械Ⅲ－Ⅱ		学年	3
		単位数	1	コマ数	8
教科目標					
農業用機械の仕組みや構造を理解できるようになる					
講 義 内 容	1	作業機(運搬用機械)			
	2	作業機(環境調節用機械)			
	3	農業機械の整備と保守			
	4	農作業による事故と健康障害			
	5	安全に関する法規			
	6	農業機械の効率的利用			
	7	農業機械による自動化(作業工程の自動化)			
	8	農業機械による自動化(農業機械の高度化)			
評価方法					
評 価 基 準	新 G P A 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

<2024年度 救急救命士学科 レスキューコース シラバス>

科目名	気象 I			学年	3
		単位数	1	コマ数	8
教科目標					
気象の変化とそのメカニズムを理解できるようになる					
講 義 内 容	1	気象の基礎知識			
	2	大気の構造と気象変化			
	3	気象観測とデータ分析			
	4	気団と季節風			
	5	高気圧と低気圧			
	6	気象の情報収集と予測			
	7	天気図の見方			
	8	レーダー・アメダス雨量合成図の利用法			

評価方法			
評価基準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	単位認
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	
備考			

単位認

<2024年度 救急救命士学科 レスキューコース シラバス>

科目名	気象Ⅱ			学年	3
		単位数	1	コマ数	8
教科目標					
気象の変化とそのメカニズムを理解できるようになる					
講 義 内 容	1	日本の気象			
	2	日本の気候区分			
	3	湿度の火災			
	4	風と火災			
	5	気象と水災			
	6	急傾斜地の崩壊等による災害			
	7	台風			
	8	気象予報			

評価方法		
評価基準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。
備考		

単位認

＜2024年度 救急救命士学科 レスキューコース シラバス＞

科目名	救助実技Ⅲ			学年	3
		単位数	2	コマ数	45
教科目標 救助資機材を使用した基本的な活動を理解し安全にスピーディーな活動ができる					
講 義 内 容	1～10	ロープ結索の基礎			
	11～15	ロープ結索の各種要領			
	16～20	ロープの降下			
	21～25	ロープ渡過			
	26～30	ロープ登はん			
	31～35	屋内進入要領			
	36～40	濃煙検索要領			
	41～45	車両救助の基本			

評価方法		終講試験など	
評価基準	新 G P A （ 新 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	
備考			

<2024年度 救急救命士学科 レスキューコース シラバス>

科目名	救助実技Ⅳ			学年	3
		単位数	2	コマ数	45
教科目標					
救助資機材を使用した基本的な活動を理解し安全にスピーディーな活動ができる					
講義内容	1～5	車両救助の基本			
	6～15	テクニカルロープレスキュー			
	16～28	梯子取扱い基本			
	29～40	梯子操法の基本			
	41～45	総合訓練			

評価方法		終講試験など	
評価基準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	
備考			

<2024年度 救急救命士学科 レスキューコースシラバス>

科目名		救命Ⅲ		学年	3
		単位数	1	コマ数	23
授業概要、到達目標					
内因性の傷病者の状態を把握し、応急手当を実施することができる。					
講 義 内 容	1	熱中症傷病者への応急手当 状況評価・初期評価			
	2	熱中症傷病者への応急手当 観察・処置1			
	3	熱中症傷病者への応急手当 観察・処置2			
	4	頭痛傷病者への応急手当 状況評価			
	5	頭痛傷病者への応急手当 初期評価			
	6	頭痛傷病者への応急手当 観察・処置1			
	7	頭痛傷病者への応急手当 観察・処置2			
	8	頭痛傷病者への応急手当 観察・処置3			
	9	頭痛傷病者への応急手当 搬送・車内活動			
	10	胸痛傷病者への応急手当 状況評価			
	11	胸痛傷病者への応急手当 初期評価			
	12	胸痛傷病者への応急手当 観察・処置1			
	13	胸痛傷病者への応急手当 観察・処置2			
	14	胸痛傷病者への応急手当 観察・処置3			
	15	胸痛傷病者への応急手当 搬送・車内活動			
	16	腹痛傷病者への応急手当 状況評価			
	17	腹痛傷病者への応急手当 初期評価			
	18	腹痛傷病者への応急手当 観察・処置1			
	19	腹痛傷病者への応急手当 観察・処置2			
	20	腹痛傷病者への応急手当 観察・処置3			
	21	腹痛傷病者への応急手当 搬送・車内活動			
	22	雪上での応急手当1			
	23	雪上での応急手当2			
評価方法		全コマ終了後にテストを実施			
評価基準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

<2024年度 救急救命士学科 レスキューコースシラバス>

科目名		救命Ⅳ		学年	3
		単位数	1	コマ数	23
授業概要、到達目標					
通常災害およびCBRNE災害時に発生した多数傷病者への対応を適切に行えるようになる。 また、MCLSプロバイダー取得をする。					
講 義 内 容	1	多数傷病者への対応標準化トレーニング 基礎編1			
	2	多数傷病者への対応標準化トレーニング 基礎編2			
	3	多数傷病者への対応標準化トレーニング 基礎編3			
	4	多数傷病者への対応標準化トレーニング 基礎編4			
	5	多数傷病者への対応標準化トレーニング 基礎編5			
	6	多数傷病者への対応標準化トレーニング 基礎編6			
	7	多数傷病者への対応標準化トレーニング 実践編1			
	8	多数傷病者への対応標準化トレーニング 実践編2			
	9	多数傷病者への対応標準化トレーニング 実践編3			
	10	多数傷病者への対応標準化トレーニング 実践編4			
	11	多数傷病者への対応標準化トレーニング 実践編5			
	12	多数傷病者への対応標準化トレーニング 実践編6			
	13	多数傷病者への対応標準化トレーニング 実践編7			
	14	多数傷病者への対応標準化トレーニング 実践編8			
	15	多数傷病者への対応標準化トレーニング 実践編9			
	16	多数傷病者への対応標準化トレーニング 実践編10			
	17	多数傷病者への対応標準化トレーニング 実践編11			
	18	多数傷病者への対応標準化トレーニング 実践編12			
	19	多数傷病者への対応標準化トレーニング 実践編13			
	20	MCLSプロバイダーコース			
	21	MCLSプロバイダーコース			
	22	MCLSプロバイダーコース			
	23	MCLSプロバイダーコース			
評価方法		全コマ終了後にテストを実施			
評 価 基 準	新 G P A （ 新 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

<2024年度 救急救命士学科 レスキューコース シラバス>

科目名	業界研修Ⅲ			学年	3
		単位数	3	コマ数	45
教科目標					
就職先を見据えた業界で様々な体験を通し実践的な知識と技術に触れ職業感を養う					
講 義 内 容	1～45	業界の体験プログラムに従い研修を行う			

評価方法		終講試験など	
評価基準	新 評 価 （ G P A ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	
		単位認定	
備考			

<2024年度 救急救命士学科 レスキューコース シラバス>

科目名		業界研修Ⅳ		学年	3
		単位数	1	コマ数	15
教科目標					
就職先を見据えた業界で様々な体験を通し実践的な知識と技術に触れ職業感を養う					
講義内容	1～15	業界の体験プログラムに従い研修を行う			

評価方法		終講試験など	
評価基準	新 （G P A ） 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	}
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	
備考			

<2024年度 救急救命士学科 レスキューコース シラバス>

科目名	建築 I			学年	3
		単位数	1	コマ数	8
教科目標					
建築物の構造や仕組みを理解できるようになる					
講 義 内 容	1	建築物の機能的要素			
	2	建築法令			
	3	確認申請と消防同意			
	4	建築物と防火			
	5	建築構造			
	6	建築設備			
	7	建築規制			
	8	その他規制			

評価方法		
評価基準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。
備考		

単位認

＜2024年度 救急救命士学科 レスキューコース シラバス＞

科目名		公務員Ⅲ		学年	3
		単位数	6	コマ数	45
教科目標					
将来の就職試験でも必要となる一般知能・一般知識の基礎知識を会得する。					
講 義 内 容	1	社会科学(政治(国会・内閣・人権など))			
	2	社会科学(政治(国会・内閣・人権など))			
	3	社会科学(政治(国会・内閣・人権など))			
	4	社会科学(政治(国会・内閣・人権など))			
	5	社会科学(政治(国会・内閣・人権など))			
	6	社会科学(経済(市場経済・金融と財政など))			
	7	社会科学(経済(市場経済・金融と財政など))			
	8	社会科学(経済(市場経済・金融と財政など))			
	9	社会科学(経済(市場経済・金融と財政など))			
	10	社会科学(経済(市場経済・金融と財政など))			
	11	人文科学(日本史)			
	12	人文科学(日本史)			
	13	人文科学(日本史)			
	14	人文科学(世界史)			
	15	人文科学(世界史)			
	16	人文科学(世界史)			
	17	人文科学(地理)			
	18	人文科学(地理)			
	19	人文科学(地理)			
	20	人文科学(地理)			
	21	人文科学(文学)			
	22	人文科学(芸術)			
	23	判断推理			
	24	判断推理			
	25	判断推理			
	26	判断推理			
	27	判断推理			
	28	数的推理			
	29	数的推理			
	30	数的推理			
	31	数的推理			
	32	数的推理			
	33	文章理解・資料解釈(現代文)			
	34	文章理解・資料解釈(現代文)			
	35	文章理解・資料解釈(古文)			
	36	文章理解・資料解釈(英文)			
	37	文章理解・資料解釈(数表・グラフ)			
	38	自然科学(物理)			
	39	自然科学(物理)			
	40	自然科学(化学)			
	41	自然科学(化学)			
	42	自然科学(化学)			

43	自然科学(生物)
44	自然科学(地学)
45	自然科学(地学)

評価方法		終講試験など	
評価基準	新 評 価 （ G P A ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	
備考			

＜2024年度 救急救命士学科 レスキューコース シラバス＞

科目名		公務員Ⅳ		学年	3
		単位数	6	コマ数	45
教科目標					
将来の就職試験でも必要となる一般知能・一般知識の基礎知識を会得する。					
講 義 内 容	1	社会科学(政治(国会・内閣・人権など))			
	2	社会科学(政治(国会・内閣・人権など))			
	3	社会科学(政治(国会・内閣・人権など))			
	4	社会科学(政治(国会・内閣・人権など))			
	5	社会科学(政治(国会・内閣・人権など))			
	6	社会科学(経済(市場経済・金融と財政など))			
	7	社会科学(経済(市場経済・金融と財政など))			
	8	社会科学(経済(市場経済・金融と財政など))			
	9	社会科学(経済(市場経済・金融と財政など))			
	10	社会科学(経済(市場経済・金融と財政など))			
	11	人文科学(日本史)			
	12	人文科学(日本史)			
	13	人文科学(日本史)			
	14	人文科学(世界史)			
	15	人文科学(世界史)			
	16	人文科学(世界史)			
	17	人文科学(地理)			
	18	人文科学(地理)			
	19	人文科学(地理)			
	20	人文科学(地理)			
	21	人文科学(文学)			
	22	人文科学(芸術)			
	23	判断推理			
	24	判断推理			
	25	判断推理			
	26	判断推理			
	27	判断推理			
	28	数的推理			
	29	数的推理			
	30	数的推理			
	31	数的推理			
	32	数的推理			
	33	文章理解・資料解釈(現代文)			
	34	文章理解・資料解釈(現代文)			
	35	文章理解・資料解釈(古文)			
	36	文章理解・資料解釈(英文)			
	37	文章理解・資料解釈(数表・グラフ)			
	38	自然科学(物理)			
	39	自然科学(物理)			
	40	自然科学(化学)			
	41	自然科学(化学)			
	42	自然科学(化学)			

43	自然科学(生物)
44	自然科学(地学)
45	自然科学(地学)

評価方法		終講試験など	
評価基準	新 評 価 （ G P A ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	
備考			

単位認定

＜2024年度 救急救命士学科 レスキューコース シラバス＞

科目名	航空Ⅱ			学年	3
		単位数	1	コマ数	8
教科目標					
固定翼に関する基礎知識を身に付けることができる					
講 義 内 容	1	固定翼の構造と仕組み			
	2	航空の安全に係る一般知識			
	3	航空気象			
	4	空中航法			
	5	航空通信			
	6	航空工学			
	7	航空機の取り扱いに係る一般知識			
	8	航空機の操縦に係る一般知識			
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
	16				
	17				
	18				
	19				
	20				
	21				
	22				
	23				
	24				
	25				
	26				
	27				
	28				
	29				
	30				

評価方法			
評価基準	新 G P A （ 新 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	単位認
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	
備考			

＜2024年度 救急救命士学科 レスキューコース シラバス＞

科目名	災害Ⅱ-A			学年	3
		単位数	1	コマ数	8
教科目標 各種災害対応の基本について理解を深める。					
講 義 内 容	1	災害の概念			
	2	平時における災害対応			
	3	初動体制			
	4	通報時のコミュニケーション力(ブリーフィングについて)			
	5	現場報告(現場速報や状況評価)			
	6	他隊連携と情報共有の重要性			
	7	安全管理について			
	8	まとめ			

評価方法		終講試験など	
評価基準	新 G P A 新 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	} 単位認
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	
備考			

＜2024年度 救急救命士学科 レスキューコース シラバス＞

科目名	災害Ⅱ-B			学年	3
		単位数	1	コマ数	8
教科目標 災害の各々で予想される事象について理解を深める。					
講 義 内 容	1	災害発生数における需要と供給とは			
	2	多数傷病者発生を予想される状況考察(トリアージの基本)			
	3	NBC災害対応			
	4	災害時における効率的な無線交信要領			
	5	指揮命令の基本			
	6	「攻めの救助」と「守りの救助」			
	7	災害後におけるデフュージングとデブリーフィング			
	8	まとめ			

評価方法		終講試験など	
評価基準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	単位認
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	
備考			

単位認

＜2024年度 救急救命士学科 レスキューコース シラバス＞

科目名	自動車Ⅲ			学年	3
		単位数	2	コマ数	15
教科目標 自動車の仕組みや構造を理解できるようになる。					
講 義 内 容	1	状況評価			
	2	状況評価			
	3	状況評価			
	4	車両へのアクセス			
	5	車両へのアクセス			
	6	車両へのアクセス			
	7	車両の安定化			
	8	車両の安定化			
	9	車両の安定化			
	10	傷病者の状態の安定化			
	11	傷病者の状態の安定化			
	12	傷病者の状態の安定化			
	13	車両からの離脱			
	14	車両からの離脱			
	15	車両からの離脱			

評価方法			
評価基準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	単位認
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	
備考			

単位認

＜2024年度 救急救命士学科 レスキューコース シラバス＞

科目名	自動車Ⅳ			学年	3
		単位数	2	コマ数	15
教科目標 自動車の仕組みや構造を理解できるようになる。					
講 義 内 容	1	車両へのアクセス			
	2	車両へのアクセス			
	3	車両へのアクセス			
	4	車両の安定化			
	5	車両の安定化			
	6	車両の安定化			
	7	傷病者の状態の安定化			
	8	傷病者の状態の安定化			
	9	傷病者の状態の安定化			
	10	車両からの離脱			
	11	車両からの離脱			
	12	車両からの離脱			
	13	傷病者保護(SMR)と搬送			
	14	傷病者保護(SMR)と搬送			
	15	傷病者保護(SMR)と搬送			

評価方法			
評価基準	新 評 価 (G P A)	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	単位認
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	
備考			

単位認

＜2024年度 救急救命士学科 レスキューコース シラバス＞

科目名	船舶Ⅱ			学年	3
		単位数	1	コマ数	8
教科目標 船舶に関する基礎知識を用いてトラブル時に活用できる知識を身に付ける事ができる					
講 義 内 容	1	操縦一般			
	2	ロープワーク、錨泊と係留方法			
	3	気象及び海象			
	4	荒天時の操縦			
	5	航海の基礎			
	6	航海計画			
	7	救命設備及び通信設備			
	8	機関の保守、機関故障時の対処			

評価方法			
評価基準	新 G P A （ 新 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	単位認
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	
備考			

単位認

＜2024年度 救急救命士学科 レスキューコース シラバス＞

科目名	電気Ⅱ			学年	3
		単位数	1	コマ数	8
教科目標 ・一般生活における電気技術と工業系の電気技術の違いがわかる。 ・電気技術の基本を理解し事故時の対応を理解する。					
講 義 内 容	1	一般家庭電力(100・200V系)と工業電力(6600V系以上の高圧)の基本			
	2	柱状変圧器からの火災や漏電対応について			
	3	変電所・発電所災害の対応			
	4	高所作業における漏電事故防止(はしご車バスケット活動等)			
	5	自動車の進化(ハイブリッド・水素・電気自動車)			
	6	電気系事故時の安全管理			
	7	雷撃症の基本			
	8	まとめ			

評価方法		終講試験など	
評価基準	新 G P A 新 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	単位認定33
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	
備考			

単位認定33

＜2024年度 救急救命士学科 レスキューコース シラバス＞

科目名	特殊環境疾患			学年	3
		単位数	1	コマ数	8
教科目標 特殊な環境下での疾患を理解できるようになり、救助実技に生かせるようになる。					
講 義 内 容	1	食道異物・気道異物について			
	2	溺水について			
	3	熱中症について			
	4	偶発性低体温症について			
	5	高山病について			
	6	酸素欠乏症/減圧障害について			
	7	放射線障害について			
	8	凍傷、紫外線による障害について			

評価方法		終講試験など	
評価基準	新 G P A （ 新 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	単位認
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	
	備考		

単位認

＜2024年度 救急救命士学科 レスキューコースシラバス＞

科目名		防災Ⅲ		学年	3
		単位数	1	コマ数	23
授業概要、到達目標					
災害時の実践的な救助技術と知識を身に付ける。					
講 義 内 容	1	ロープ基本結索1			
	2	ロープ基本結索2			
	3	ロープ基本結索3			
	4	ロープ登はんと降下1			
	5	ロープ登はんと降下2			
	6	セーラー渡過とモンキー渡過1			
	7	セーラー渡過とモンキー渡過2			
	8	ホース取扱い要領1			
	9	ホース取扱い要領2			
	10	ホース取扱い要領3			
	11	内部進入要領1			
	12	内部進入要領2			
	13	布担架搬送要領1			
	14	布担架搬送要領2			
	15	バックボード搬送要領1			
	16	バックボード搬送要領2			
	17	三連梯子取扱い要領1			
	18	三連梯子取扱い要領2			
	19	三連梯子取扱い要領3			
	20	応急梯子1			
	21	応急梯子2			
	22	応急梯子3			
	23	応急梯子4			

評価方法		全コマ終了後にテストを実施			
評 価 基 準	新 （ G P A ） 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		単位認定	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

＜2024年度 救急救命士学科 レスキューコースシラバス＞

科目名		防災Ⅳ		学年	3
		単位数	1	コマ数	23
授業概要、到達目標					
災害救助の一連の要領を理解し実践することができる。					
講 義 内 容	1	ロープ基本結索1			
	2	ロープ基本結索2			
	3	ロープ基本結索3			
	4	水難救助活動 基礎1			
	5	水難救助活動 基礎2			
	6	水難救助活動 応用1			
	7	水難救助活動 応用2			
	8	ロープレスキュー 資器材確認			
	9	ロープレスキュー 安全管理			
	10	ロープレスキュー 長物ロープの取り扱い			
	11	ロープ登はんと降下1			
	12	ロープ登はんと降下2			
	13	セーラー渡過とモンキー渡過1			
	14	セーラー渡過とモンキー渡過2			
	15	セーラー渡過とモンキー渡過2			
	16	ロープレスキュー 基礎1			
	17	ロープレスキュー 基礎2			
	18	ロープレスキュー 応用1			
	19	ロープレスキュー 応用2			
	20	山岳・雪上救助活動 基礎1			
	21	山岳・雪上救助活動 基礎2			
	22	山岳・雪上救助活動 応用1			
	23	山岳・雪上救助活動 応用2			

評価方法		全コマ終了後にテストを実施			
評 価 基 準	新 G P A （ 新 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		単位認定	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

<2024年度 救急救命士学科 レスキューコース シラバス>

科目名	労働 I			学年	3
		単位数	1	コマ数	8
教科目標					
人が働く上で必要な規則や権利を理解できるようになる。					
講 義 内 容	1	労働法と労働条件			
	2	労働安全衛生と予防措置			
	3	労働市場と雇用の動向			
	4	労働組合と労働者の権利			
	5	労働者の健康管理と福利厚生			
	6	労働における多様性とインクルージョン(尊重、能力発揮)			
	7	労働と環境問題			
	8	労働とグローバル化			

評価方法				
評価基準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	}	単位認
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考				

単位認

<2024年度 救急救命士学科 レスキューコース シラバス>

科目名	労働Ⅱ			学年	3
		単位数	1	コマ数	8
教科目標					
人が働く上で必要な規則や権利を理解できるようになる。					
講 義 内 容	1	労働法と労働条件の応用			
	2	労働安全衛生の高度な技術			
	3	労働市場と雇用の戦略			
	4	労働組合と労働者の交渉力			
	5	労働者のメンタルヘルスとストレス管理			
	6	労働におけるダイバーシティとイクイティ(公平/公正性)			
	7	労働と持続可能な開発			
	8	労働と国際関係			

評価方法		
評価基準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。
備考		

単位認